

アセタミプリド (案)

1. 品目名：アセタミプリド (acetamiprid)

2. 用途：殺虫剤

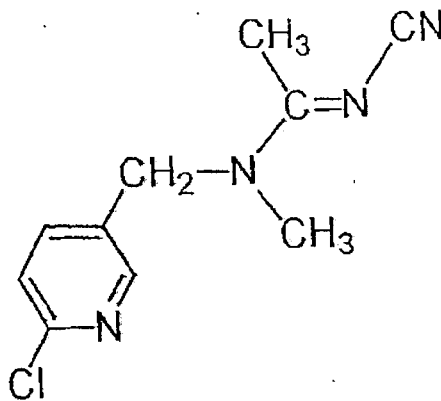
ネオニコチノイド系の殺虫剤である。作用機構は、昆虫神経のシナプス後膜のニコチン性アセチルコリン受容体に作用し、シナプス伝達の遮断を起こし殺虫活性を示すとされる。

3. 化学名：

(*E*)-*N*¹-[(6-chloro-3-pyridyl)methyl]-*N*²-cyano-*N*¹-methylacetamide (IUPAC)

(*E*)-*N*¹-[(6-chloro-3-pyridinyl)methyl]-*N*²-cyano-*N*-methylethanamide (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式 $C_{10}H_{11}ClN_4$

分子量 222.68

水溶解度 4.25g/L (25°C)

分配係数 $\log_{10}Pow=0.80$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

なお、今回の基準値の設定に合わせ、一部で使用方法等の適用の変更と剤型の追加がされている。

(1) アセタミプリド 20% 水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
かんきつ	アブラムシ類	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ミカンハモグリガ						
	アザミウマ類						
	コナカイガラムシ類						
	ゴマダラカミリ成虫						
	キノカイガラムシ						
	ゴアオハムグリ						
	ケキスイ類						
	アゲハ類						
	カメムシ類						
	アカマルカイガラムシ						
	ロウムシ類	4000倍	30～75L/10a			主幹から株元に散布	
	コナジラミ類						
ゴマダラカミリ	200～400倍						
りんご	アブラムシ類	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	キンモンハモグリガ						
	キンモンホソガ						
	シクイムシ類						
	カメムシ類						
	リンゴワタムシ	4000倍					
	クワコナカイガラムシ						
	モモチヨッキリゾウムシ						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチアリドを含む農薬の総使用回数
なし	カメシ類	2000～4000倍	700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	アブラムシ類						
	シクイムシ類						
	クコナカハラムシ						
カキノヒメヨコバイ	3回以内	3回以内					
アブラムシ類							
モモハモグリガ							
もも	シクイムシ類	2000倍		収穫3日前まで	3回以内		3回以内
	ミカンキイロアザミウマ						
	カメシ類						
ネクタリン	コスカシハ	4000倍	200～	収穫14日前まで	2回以内	3回以内	
	アブラムシ類						
	モモハモグリガ						
	シクイムシ類						
	ミカンキイロアザミウマ						
ぶどう	カメシ類	2000～4000倍	700L/10a	収穫後秋期	3回以内	2回以内	
	コナカハラムシ類						
	チャノキイロアザミウマ						
	フタテヒメヨコバイ						
	ツマグロアカズミカメ						
かき	ブドウトラカキリ	2000～4000倍	700L/10a	収穫7日前まで	3回以内	3回以内	
	カキグダアザミウマ						
	チャノキイロアザミウマ						
	フジコナカハラムシ						
	カキノハナムシガ						
	カキノヒメヨコバイ						
カメシ類							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチリドを含む農薬の総使用回数
小粒核果類(すももを除く)	アブラムシ類	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
びわ	カミキリムシ類			2000倍	400L/10a		収穫前日まで
いちじく	アザミウマ類						
	キバシカミキ						
	アジコカガラムシ						
	イジケトリモチ	2000～4000倍	400L/10a	収穫14日前まで	2回以内		2回以内
かりん	ナシメジクイ						
とうもろこし	アブラムシ類	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内		3回以内
ばれいしょ	テントウムシダマシ						
		アブラムシ類	2000～6000倍	100～300L/10a	種芋掘取り7日前まで		5回以内
やまのいも	アザミウマ類						
やまのいも(種芋栽培)	アブラムシ類	4000倍	100～300L/10a	収穫21日前まで	3回以内	3回以内	
	アザミウマ類						
やまのいも(むかご)	アブラムシ類	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫7日前まで	5回以内	5回以内	
	アザミウマ類						
すもも	アブラムシ類	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫7日前まで	3回以内	3回以内	
		シクイムシ類					4000倍
さんしょう(葉)	チャノキアザミウマ	4000倍	100～300L/10a	収穫45日前まで	6回以内	6回以内	
	アブラムシ類						
さんしょう(果実)	チャノキアザミウマ	4000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	1回	4回以内(散布は1回以内、樹幹散布は3回以内)	
	アブラムシ類						
		ゴマダラカミキリ幼虫	200倍	20L/10a	3回以内	樹幹散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アタプリドを含む農薬の総使用回数			
おうとう	カラムシ類	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫3日前まで	1回	散布	1回			
	オウトウショウジョウバエ									
えだまめ	アブラムシ類	4000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内		4回以内(は種時の土壌混和は1回以内、は種後は3回以内)			
	コナジラミ類									
	アザミウマ類									
あずき	アブラムシ類			4000倍			100～300L/10a	収穫21日前まで	3回以内	
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどうを除く)	アブラムシ類							アザミウマ類		収穫7日前まで
	コナジラミ類									
さやいんげん	アブラムシ類			2000～4000倍		100～300L/10a		3回以内		
さやえんどう	コナジラミ類			4000倍						アザミウマ類
きゅうり	コナジラミ類	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	5回以内(定植時の株元散布は1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)			
	ミカンキイロアザミウマ									
	ウリノメイガ									
	アブラムシ類	2000～4000倍								
ミカンキイロアザミウマ										
すいか	アブラムシ類	2000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)			
	ミカンキイロアザミウマ									
	ウリノメイガ									
	コナジラミ類									

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アタンプリドを含む農薬の総使用回数
メロン	アブラムシ類	8000 倍	100～ 300L/10a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
うり類(漬 物用)	アザミウマ類	2000～4000 倍					
	アブラムシ類	2000 倍					
トマト	コナジラミ類						
	ヒラズ ^o ハナアザミ ウマ						
	アブラムシ類						
ミニトマト	コナジラミ類						
	ヒラズ ^o ハナアザミ ウマ						
なす	アブラムシ類	4000 倍		収穫前日 まで	3 回以内		4 回以内(粒剤 の株元散布及 び土壌混和は 合計 1 回以内、 散布及びくん 煙は合計 3 回 以内)
	ミナキイロアザミ ウマ						
ピーマン	アブラムシ類		2 回以内	3 回以内	2 回以内	3 回以内(粒剤 の株元散布及 び土壌混和は 合計 1 回以内、 散布及びくん 煙は合計 2 回 以内)	
	アザミウマ類						
	コナジラミ類						
とうがら し類	アブラムシ類	8000 倍	収穫 7 日 前まで	5 回以内	2 回以内	2 回以内	
キャベツ	コナガ ^o	1000～2000 倍					
	アオムシ						
	アブラムシ類	2000～4000 倍				6 回以内(粒剤 の株元散布及 び土壌混和は 合計 1 回以内、 散布は 5 回以 内)	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アピタミッドを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	コカ	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(粒剤 の株元散布及 び土壌混和は 合計 1 回以内、 散布は 3 回以 内)
	アオシ						
	アブラムシ類						
はくさい	コカ	1000～2000 倍					
	アオシ	2000～4000 倍					
	アブラムシ類						
だいこん	コカ	2000 倍			1 回		
	アオシ						
	キジノミハシ	2000～4000 倍					
	アブラムシ類						
わさびだ いこん	コカ	2000 倍	収穫 7 日 前まで	1 回	1 回		
はつかだ いこん	アブラムシ類	2000～4000 倍	収穫 14 日 前まで				
かぶ	キジノミハシ	2000 倍	収穫 21 日 前まで				
	アブラムシ類		1 回	収穫 7 日 前まで	チンゲンサイは 2 回 以内(粒剤の 株元散布は 1 回以内、散布 は 1 回以内)、チ ンゲンサイ以外は 1 回		
非結球あ ぶらな科 葉菜類	キジノミハシ	4000 倍					
						なばな類	アブラムシ類
いちご	コナジラミ類	2000 倍					収穫前日 まで
	ヒラズハアザミ ウマ						
	ミカンキイロアザミ ウマ						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセミプロドを含む農薬の総使用回数		
つるな	アブラムシ類	4000～8000倍	100～ 300L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内		
パセリ		8000倍		収穫21日前まで				1回	1回
レモンバーム		4000～8000倍		収穫14日前まで				2回以内	2回以内
はっか		8000倍		収穫7日前まで					
セージ		4000～8000倍		収穫21日前まで	1回		1回		
パセリ		8000倍		収穫3日前まで					
茎ブロッコリー		4000倍		収穫前日まで					
メキャベツ		2000倍			収穫7日前まで		1回	1回	
非結球メキャベツ					2回以内		2回以内		
食用さくら(葉)	アザミヤ類	4000倍		収穫3日前まで	1回		1回		
あけび(果実)	アブラムシ類			500L/10a	収穫7日前まで	2回以内	2回以内		
たまねぎ	ネギアザミヤ	2000倍	100～ 300L/10a		3回以内	3回以内			
ねぎ	ネギアザミヤ	2000倍		収穫7日前まで	3回以内	3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、植付時の土壌混和及び定植当日までの株元散布は合計1回以内)			
わけぎ	アザミヤ類			3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、植付時の土壌混和は1回以内)					
あさつき	アザミヤ類			3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、植付時の土壌混和は1回以内)					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセミプリドを含む農薬の総使用回数
アスパラガス	アブラムシ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	コジラミ類						
	ネギアザミウマ						
	ジュウシホシヒカガムシ						
レタス	アブラムシ類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内(粒剤の株元散布は1回以内、散布は3回以内)
非結球レタス	アザミウマ類			1回	2回以内(粒剤の株元散布は1回以内、散布は1回以内)		
				3回以内	3回以内		
オクラ	アブラムシ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
食用ぎく	アザミウマ類			2回以内	2回以内		
食用金魚草				1回	1回		
食用アリムラ				4回以内	4回以内		
食用ゆり	アブラムシ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
にら	アザミウマ類			3回以内	3回以内		
てんさい	テンサイトビヒハムシ	200倍	ペーパーポット 1冊当り 1L(3L/m ²)	定植前	1回	苗床灌注	1回
	テンサイイカリナバエ						
にがうり	アブラムシ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
マンゴー	チャノキイロアザミウマ	2000倍	300～ 700L/10a	収穫35日前まで			
タイム	アブラムシ類	8000倍	100～ 300L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
マジョラム				収穫14日前まで			
オレガノ				収穫7日前まで			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセミプリドを含む農薬の総使用回数
茶	チャノミドリヒメコハイ	2000～4000倍	200～400L/10a	摘採14日前まで	1回	散布	1回
	チャノキイロアザミウマ						
	チャノホリガ						
みつば	チャノキイロアザミウマ	8000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	2回以内		3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
かぼちゃ	チャノホリガ						
ブルーベリー	オウトウシヨウジウバエ	4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	1回		1回
ほうれんそう (使用時期の変更)	アブラムシ類	8000倍			2回以内		2回以内
キウフルーツ	クワシロカイガラムシ	2000倍			400L/10a		収穫7日前まで
カブアワ	アブラムシ類		4000倍	収穫14日前まで			
食用ほおずき		100～300L/10a		2回以内	2回以内	2回以内	
くきちしや							
ふだんそう							
しそ		コナジラミ類		3000倍	100～300L/10a	2回以内	3回以内(粒剤の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
ふき	コナジラミ類	3000倍	収穫14日前まで				
らっきょう	ネギアザミウマ	2000倍	100～300L/10a	2回以内	3回以内	3回以内	
アセロラ	アブラムシ類	4000倍			収穫7日前まで	2回以内	2回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
パッションフルーツ	コカカラムシ類	2000倍	100～300L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
しゅんぎく	アブラムシ類	8000倍		収穫14日前まで			
なずな				収穫7日前まで	1回		1回
ははこぐさ							
エンサイ				4000倍	2回以内		2回以内
チャービル	アブラムシ類	8000倍		収穫21日前まで	3回以内		3回以内
タロン		4000倍		収穫14日前まで	2回以内		2回以内
ディル(葉)		8000倍		収穫21日前まで	3回以内		3回以内
モロヘイヤ (適用変更)		コカカラムシ類		4000倍	収穫21日前まで		1回
セロリ (適用変更)	アブラムシ類	収穫7日前まで			2回以内		2回以内

(2) アセタミプリド 2% 粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コカカ アオムシ	1～2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	6回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布は5回以内)
	コカカ アオムシ アブラムシ類	0.5～1g/株	定植前日～定植当日		株元散布	
	ハイマダラノメカ ハスモンヨトウ	0.5g/株			植穴土壌混和	
	アブラムシ類	1g/株	定植時			
		1～2g/株				
はくさい	コカカ アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	定植前日～定植当日	1回	株元散布	4回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	ハイマダラノメカ コカカ アオムシ アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴土壌混和	
チンゲンサイ	コカカ アブラムシ類 アオムシ	0.5g/株	定植前日～定植当日	1回	株元散布	2回以内(粒剤の株元散布は1回以内、散布は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アタマジリドを含む農薬の総使用回数
非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)	コガ	3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	1回
	アブラムシ類					
だいこん	コガ					
	アブラムシ類					
ブロッコリー	コガ	0.5~1g/株	定植前日~定植当日	1回	株元散布	4回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
		1~2g/株	定植時		植穴土壌混和	
	アオムシ	1g/株			株元散布	
	アブラムシ類	0.5~1g/株	定植前日~定植当日		植穴土壌混和	
		1g/株	定植時			
	ハイダラノメカ	0.5~1g/株	定植前日~定植当日			
0.5g/株	定植時					
きゅうり	アブラムシ類	0.5~1g/株	定植時		株元散布	5回以内(定植時の株元散布は1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)
		0.5g/株	定植後、但し収穫30日前まで			
すいか		1g/株	定植時		植穴土壌混和	4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)
ピーマン	アブラムシ類	0.5g/株	定植時		植穴土壌混和	3回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内)
			定植前日~定植当日		株元散布	
なす	アブラムシ類	0.5~1g/株	定植時		植穴土壌混和	4回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)
トマト	コジラミ類	0.5g/株	生育期	2回以内	株元散布	3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布及びくん煙及び株元散布は合計2回以内)
	トマトハモグリバエ					
	アブラムシ類					
ミニトマト	コジラミ類	1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	
	トマトハモグリバエ					
いちご	アブラムシ類	0.5~1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内)
			生育期(定植30日後まで)但しマルチ被覆直前まで		株元散布	
		0.5g/株	定植時			

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アピタミドを含む農薬の総使用回数	
レタス	ナメグリハエ オタバコガ	0.5g/株	定植前日～ 定植当日	1回	株元散布	4回以内(粒剤の株元散布は1回以内、散布は3回以内)	
	アブラムシ類						0.25～ 0.5g/株
非結球レタス		ナメグリハエ オタバコガ				0.5g/株	
	ばれいしょ	アブラムシ類				3～6kg/10a	植付時
わけぎ	ネアザミウマ ネハメグリハエ	6kg/10a	は種時		播溝土壌混和	3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、植付時の土壌混和は1回以内)	
	あさつき		ネアザミウマ ネハメグリハエ		6kg/10a	は種時	播溝土壌混和
わけぎ		ネアザミウマ ネハメグリハエ	植付時			植溝土壌混和	
		あさつき				ネアザミウマ ネハメグリハエ	
ねぎ	ネアザミウマ ネハメグリハエ	0.25～ 0.5g/株	定植前日～ 定植当日		株元散布	3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、植付時の土壌混和及び定植当日までの株元散布は合計1回以内)	
	わけぎ		6kg/10a		は種時		播溝土壌混和
		植付時		植溝土壌混和			
				ネアザミウマ ネハメグリハエ			
	ぶどう	ブドウネアブラムシ	30g/m ² (但し6kg/10a以下)	収穫14日前まで	2回以内		樹冠下または主幹周辺に散布
さといも	アブラムシ類	3～6kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回	
えだまめ	アブラムシ類	3kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	4回以内(は種時の土壌混和は1回以内、は種後は3回以内)	
ひこしまはるな		1g/株	定植時		植穴土壌混和	1回	
ふき	コシジラミ類 モモアカアブラムシ	2g/株	収穫90日前まで		株元散布	3回以内(粒剤の株元散布は1回以内、散布は2回以内)	
こんにゃく	リクアブラムシ	3kg/10a	培土時(出芽期)	株元土壌混和	1回		
かぼちゃ	アブラムシ類	1g/株	定植時	植穴土壌混和	3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)		
セロリ		0.5g/株			1回		

(3) 15% アセタミプリド くん煙剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数		
メロン	温室、ビニールハウス等の密閉できる場所	アブラムシ類	くん煙室容積 400m ³ (床面積200m ² ×高さ2m)当たり50g	収穫前日まで	3回以内	くん煙	3回以内		
きゅうり		コジラミ類					5回以内(定植時の株元散布は1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)		
		シシキイロアザミウマ							
ピーマン		アブラムシ類			2回以内		3回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内)		
すいか		シシキイロアザミウマ			3回以内		4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)		
なす		アブラムシ類					4回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)		
		シシキイロアザミウマ			2回以内		3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布及びくん煙及び株元散布は合計2回以内)		
トマト		コジラミ類					2回以内	3回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内)	
ミニトマト		シシキイロアザミウマ							
いちご		アブラムシ類			3回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内)				
みかん							収穫3日前まで	3回以内	3回以内
ズッキーニ							収穫前日まで	2回以内	2回以内
みょうが(花穂)	アブラムシ類	3回以内	3回以内	くん煙、但し花穂の発生期には花穂をマルチフィルム被覆した状態で使用する	3回以内				

(4) 0.005% アセタミプリド スプレー剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	
うめ	アブラムシ類	原液	収穫7日前まで	2回以内	希釈せずそのまま散布する	2回以内	
かんきつ			収穫14日前まで	3回以内		3回以内	
きゅうり	シキイロアザミマ		収穫前日まで	3回以内		5回以内(定植時の株元散布は1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)	
トマト	アブラムシ類			2回以内		3回以内	3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布及びくん煙及び株元散布は合計2回以内)
	タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)						
なす	シキイロアザミマ		3回以内	3回以内		4回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)	
	オンツコナジラミ						

(5) 2% アセタミプリド 液剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
かき	カキノハムシガ	500倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
うめ	アブラムシ類			2回以内		2回以内
かんきつ				収穫14日前まで		3回以内
トマト			収穫前日まで	2回以内		3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布及びくん煙及び株元散布は合計2回以内)
なす				3回以内		4回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)
きゅうり						5回以内(定植時の株元散布は1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布及びくん煙は合計3回以内)
はくさい		アオムシ	250倍	収穫14日前まで	4回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)	
キャベツ	収穫7日前まで			5回以内	6回以内(粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布は5回以内)	

(6) 18% アセタミプリド 液剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
かんきつ	アブラムシ類	4000倍	200 ~ 700L /10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ミカンハモグリガ						
	ゴアハナムグリ						
	ケシスイ類						
	アカマルカイガラムシ						
	ヤノネカイガラムシ	2000 ~ 4000倍					
	アザミウマ類						
	コナカイガラムシ類						
	ゴマダラカミキリ成虫						
	カメシ類	4000倍					
ゴマダラカミキリ	30 ~ 75L /10a						
キウフルーツ	キウヒメヨコバイ	400倍	200 ~ 700L /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内(植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
ばれいしょ	テントウムシダマシ	4000 ~ 6000倍	100 ~ 300L /10a				
	とうもろこし(子実)	アブラムシ類	4000 ~ 6000倍	100 ~ 300L /10a	収穫14日前まで	3回以内	散布
未成熟とうもろこし		64倍	3.2L/10a	無人ヘリコプターによる散布			
てんさい	テンサイヒバムシ	200倍	ペーパーホット1冊当り1L(3L/m ²)	定植前	1回	苗床灌注	1回
あずき	アブラムシ類	4000倍	100 ~ 300L /10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも	アブラムシ類	4000倍	100 ~ 300L /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも(むかご)				収穫21日前まで			
はくさい				収穫14日前まで			
				収穫7日前まで	5回以内		
キャベツ				収穫14日前まで			
だいこん	収穫7日前まで						
はつかだいこん	収穫14日前まで						
茶(適用変更)	チャノミドリヒメヨコバイ	2000倍	200 ~ 400L /10a	摘採14日前まで	1回	散布	1回
	チャノキイロアザミウマ						
	マダラカサハラムシ	2000 ~ 4000倍					
	ロミカンアブラムシ						
	チャノホソガ	2000 ~ 4000倍					

(7) 0.005% アセタミプリド・0.04% チオファネートメチル スプレー剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	アセタミプリドを 含む農薬の総使用回 数	チオファネートメチルを 含む農薬の総使用回 数	
きゅうり	炭疽病	原液	収穫 前日 まで	3回以 内	希 釈 せ ず そ の ま ま 散 布 す る	5回以内(定植時の株 元散布は1回以内、 定植後の株元散布は 1回以内、散布及びく ん煙は合計3回以 内)	6回以内(種子への処 理は1回以内、は種後 は5回以内)	
	うどんこ病							
	アブラムシ類							
	コナジラミ類							
トマト	葉かび病			2回以 内		3回以 内		4回以内(定植時の土 壌混和は1回以内、 散布及びくん煙及び 株元散布は合計2回 以内)
	コナジラミ類							
なす	アブラムシ類			3回以 内		4回以内(粒剤の株元 散布及び土壌混和は 合計1回以内、散布 及びくん煙は合計3 回以内)		

(8) 1% アセタミプリド 粒剤 (新規)

作物名	適用病害虫名	使 用 量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む 農薬の総使用回数
きゅうり	アブラムシ類	1~2g/ 株	定植後から 収穫前日ま で	3回以内	株元散布	5回以内(定植時の2%粒 剤の株元散布は1回以 内、定植後の2%粒剤の 株元散布は1回以内、 散布及びくん煙及び1% 粒剤の株元散布は合計 3回以内)
	コナジラミ類	1g/株				
なす	アブラムシ類	1~2g/ 株				4回以内(定植時の2%粒 剤の株元散布及び土壌 混和は合計1回以内、散 布及びくん煙及び1%粒 剤の株元散布は合計3 回以内)
トマト ミニトマト	コナジラミ類	1g/株				
ピーマン	アブラムシ類	1~2g/ 株		2回以内		3回以内(定植時の2%粒 剤の土壌混和は1回以 内、散布及びくん煙及 び1%粒剤の株元散布は 合計2回以内)

(10) 海外での使用方法

① 70% アセタミプリド 水和剤 (米国)

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
まめ類 エンドウマメ インゲンマメ ダイズ 等	アブラムシ類 ヨコバイ類 Cucumber beetle ダイズサルハムシ インゲンテントウ	0.044-0.1	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	3回 以内
	コナジラミ類	0.075-0.1			
	アザミウマ類	0.085-0.1			
Tuberous And Corn Vegetables ジャガイモ サツマイモ クズウコン アーティチョーク 等	アブラムシ類	0.044-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	ヨコバイ類, コロラドハムシ Cucumber beetle	0.025-0.075			
	ノミハムシ類	0.025-0.05			
	ヨーロッパアワノメイガ (卵)	0.05-0.075			
アブラナ科作物 ブロッコリー キャベツ 芽キャベツ ミズナ カリフラワー ケール 等	アブラムシ類	0.035-0.054	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.05-0.075			
	アザミウマ類	0.075			
	コナガ	0.075			
	Swede midge	0.075			
葉野菜 セロリ レタス カラシナ ホウレンソウ パセリ 等	アブラムシ類	0.035-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.05-0.075			

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
タマネギ および Bulb Vegetable類 タマネギ ニンニク ユリネ 等	アザミウマ類	0.094-0.15	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
果菜類 ナス トマト ホウズキ トウガラシ 等	アブラムシ類	0.035-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	コロラドハムシ	0.025-0.05			
	コナジラミ類	0.05-0.075			
	アザミウマ類	0.075			
	Pepper weevil	0.05-0.075			
うり類 メロン キュウリ カボチャ スイカ 等	Cucumber beetle Melonworm Pickleworm	0.05-0.10	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫直後 まで (PHIO)	5回 以内
	ヘリカメムシ類 Squash vine borer	0.1			
	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.05-0.075			
	シルバーリーフ コナジラミ	0.05-0.10			
柑橘類 グレープフルーツ キンカン レモン ライム オレンジ ミカン 等	アブラムシ類	0.05-0.1	航空散布 20 gallons/A 地上散布 100 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	Citrus thrips, ミカンハモグリガ Caribbean black scale, Glassywinged shaepshooter	0.75-0.125			
	アカマルカイガラムシ, カンキツカタカイガラムシ	0.15-0.25			
	キリギリス類	0.11-0.19			

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
Pome Fruit リンゴ ナシ マルメロ ビワ 等	アブラムシ類	0.05-0.075	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Tentiform leafminer	0.05			
	ヨコバイ類	0.05-0.075			
	コドリンガ	0.075-0.15			
	ナシヒメシンクイ Lesser apple worm	0.1-0.15			
	コナカイガラムシ類 <i>Psylla mullein</i> カスミカメムシ類	0.075-0.15			
	European apple sawfly マメコガネ	0.1-0.15			
	Apple maggot Plum curculio ナシマルカイガラムシ	0.15			
	Dogwood borer	0.15			
Stone Fruit アプリコット オウトウ ネクタリン モモ ブラム 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.05-0.10	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Glassywinged sharpshooter	0.075-0.15			
	ナシヒメシンクイ Peach twig borer Plum curculio Cat-Facing insects	0.1-0.15			
	Cherry fruit fly Black cherry fly Western cherry fly	0.10-0.15			
	ナシマルカイガラムシ マメコガネ Rose chafer	0.1-0.15			

作物群	適用病 害虫名	薬量 Ib ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
イチゴ および Low growing berry 類	Blueberry maggot, Blueberry spanworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類, マメコガネ, Oblique banded leaf roller, カスミカメムシ類 ケシキスイ類, アザミウマ類 コナジラミ類 Fireworm	0.075-0.13	航空散布 10 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 1日前 まで	2回 以内
	アブラムシ類 ヨコバイ類 アワフキムシ類	0.035-0.075			
ブルーベリー および Bush and Cane berry 類 ブルーベリー ラズベリー 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.044-0.1			
	コナジラミ類	0.075-0.1			
	マメコガネ, Blueberry maggot, ケシキスイ類, Tamished plant bug, Strawberry rootworm, Carnberry fruitworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類, Blueberry spanworm アザミウマ類	0.085-0.1	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 1日前 まで	5回 以内
ぶどう キウイフルーツ (Fuzzy kiwifruit を除く)	ヨコバイ類, Glassywinged sharpshooter, アブラムシ類, コナカイガラムシ類 Western grapeleaf skeletonizer (ロッキ山脈東側のみの登録) ブドウネアブラムシ Banded grape bug Rose chafer マメコガネ	0.05	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	2回 以内

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
綿実	アブラムシ類	0.025-0.05	地上散布 5~10 gallos/A	収穫 28日前 まで	4回 以内
	シルバーリーフ コナジラミ	0.075-0.1			
	カスミカメムシ類	0.05-0.1			
	ノミハムシ類	0.025-0.05			
	アザミウマ類	0.05-0.075			
	オオタバコガ (卵)	0.025-0.05			
	コナジラミ類 (卵)	0.075-0.1			
Tree Nuts	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.05-0.18	航空散布 10 gallons/A	収穫 14日前 まで	4回 以内
	Glassywinged Sharpshooter Pecan Nut Casebearer	0.075-0.125			
アーモンド ペカン マカデミアナッツ ピスタチオ 等	コドリングア ナシヒメシクイ Peach twig borer ナシマルカイガラムシ Hickory shuckworm Pecan weevil Red humped caterpillar Filbertworm Navel orangeworm	0.1-0.18	地上散布 50 gallons/A		

② 30% アセタミプリド 水溶性粒剤 (米国)

作物群	適用病 害虫名	薬量 Ib ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
まめ類 エンドウマメ インゲンマメ ダイズ 等	アブラムシ類 ヨコバイ類 Cucumber beetle ダイズサルハムシ インゲンテントウ	0.047-0.1	航空散布 5 gallons/A	収穫 7日前 まで	3回 以内
	コナジラミ類	0.075-0.1	地上散布 20 gallons/A		
	アザミウマ類	0.085-0.1			
Tuberous And Corm Vegetables ジャガイモ サツマイモ クズウコン アーティチョーク 等	アブラムシ類	0.047-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	ヨコバイ類 コロラドハムシ Cucumber beetle	0.028-0.075			
	ノミハムシ類	0.028-0.047			
	ヨーロッパアヲノメイガ (卵)	0.047-0.075			
アブラナ科作物 ブロッコリー キャベツ 芽キャベツ ミズナ カリフラワー ケール 等	アブラムシ類	0.038-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.047-0.075			
	アザミウマ類	0.075			
	コナガ	0.075			
	Swede midge	0.075			
葉野菜 セロリ レタス カラシナ ホウレンソウ パセリ 等	アブラムシ類	0.038-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.056-0.075			

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
タマネギ および Bulb Vegetable 類 タマネギ ニンニク ユリネ 等	アザミウマ類	0.094-0.15	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
果菜類 ナス トマト ホウズキ トウガラシ 等	アブラムシ類 コロラドハムシ コナジラミ類 アザミウマ類 Pepper weevil	0.038-0.075 0.028-0.047 0.047-0.075 0.075 0.047-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
うり類 メロン キュウリ カボチャ スイカ 等	Cucumber beetle Melonworm Pickleworm ヘリカメムシ類 Squash vine borer アブラムシ類 ヨコバイ類 シルバーリーフ コナジラミ	0.047-0.10 0.10 0.047-0.075 0.047-0.10	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫直後 まで (PHIO)	5回 以内
柑橘類 グレープフルーツ キンカン レモン ライム オレンジ ミカン 等	アブラムシ類 Citrus thrips, ミカンハモグリガ, Caribbean black scale, Glassywinged shaepshooter アカマルカイガラムシ, カンキツカタカイガラムシ キリギリス類	0.047-0.103 0.075-0.13 0.15-0.25 0.11-0.19	航空散布 20 gallons/A 地上散布 100 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
Pome Fruit リンゴ ナシ マルメロ ビワ 等	アブラムシ類	0.047-0.075	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Tentiform leafminer	0.047			
	ヨコバイ類	0.047-0.075			
	コドリंगा	0.075-0.15			
	ナシヒメシクイ Lesser apple worm	0.094-0.15			
	コナカイガラムシ類 <i>Psylla mullein</i> カスミカメムシ類	0.075-0.15			
	European apple sawfly マメコガネ	0.094-0.15			
	Apple maggot Plum curculio ナシマルカイガラムシ	0.15			
	Dogwood borer	0.15			
Stone Fruit アプリコット オウトウ ネクタリン モモ プラム 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.10	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Glassywinged sharpshooter	0.075-0.15			
	ナシヒメシクイ Peach twig borer Plum curculio	0.10-0.15			
	Cat-Facing insects Cherry fruit fly Black cherry fly Western cherry fly	0.10-0.15			
	ナシマルカイガラムシ マメコガネ Rose chafer	0.10-0.15			

作物群	適用病 害虫名	薬量 Ib ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
イチゴ および Low growing berry類	Blueberry maggot, Blueberry spanworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類, マメコガネ, Oblique banded leaf roller, カスミカメムシ類 ケシクスイ類, アザミウマ類 コナジラミ類 Fireworm	0.075-0.13	航空散布 10 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 1日前 まで	2回 以内
	アブラムシ類 ヨコバイ類 アワフキムシ類	0.035-0.075			
ブルーベリー および Bush and Cane berry類 ブルーベリー ラズベリー 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.1			
	コナジラミ類	0.075-0.1			
	マメコガネ Blueberry maggot, ケシクスイ類, Tarnished plant bug, Strawberry rootworm, Cranberry fruitworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類, Blueberry spanworm アザミウマ類	0.085-0.1	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 1日前 まで	5回 以内
ぶどう キウイフルーツ (Fuzzy kiwifruitを 除く)	ヨコバイ類, Glassywinged sharpshooter, アブラムシ類, コナカイガラムシ類 Western grapeleaf skeletonizer (ロッキ-山脈東側のみの登録) ブドウネアブラムシ Banded grape bug Rose chafer マメコガネ	0.047	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	2回 以内

作物群	適用病 害虫名	薬量 Ib ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
綿実	アブラムシ類	0.028-0.047	航空散布 5 gallons/A 地上散布 10 gallons/A	収穫 28日前 まで	4回 以内
	シルバーリーフ コナジラミ	0.075-0.1			
	カスミカメムシ類	0.047-0.1			
	ノミハムシ類	0.028-0.047			
	アザミウマ類	0.047-0.075			
	オオタバコガ (卵)	0.028-0.047			
	コナジラミ類 (卵)	0.075-0.1			
Tree Nuts アーモンド ペカン マカデミアナッツ ピスタチオ 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.18	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 14日前 まで	4回 以内
	Glassywinged Sharpshooter Pecan Nut Casebearer	0.075-0.15			
	コドリンガ ナシヒメシンクイ Peach twing borer ナシマルカイガラムシ Hickory shuckworm Pecan weevil Red humped caterpillar Filbertworm	0.10-0.18			

③ 4%アセタミプリド+5%インドキサカルブ 水和剤 (韓国)

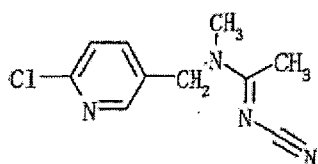
作物群	適用病 害虫名	薬量 Ib ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
Unipe red peppers	アブラムシ類、蛾類、 シラミ類、アザミウマ	1000倍希釈 (a. i. 0.010 kg/10a)	葉面散布 250 L/10 a	収穫2日前 まで	2回

6. 作物残留試験

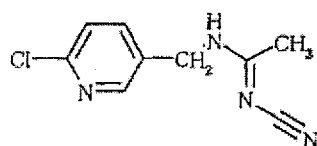
(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

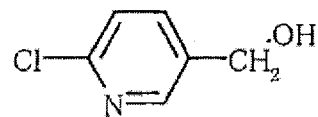
- ・ アセタミプリド (GC法、HPLC法)
- ・ アセタミプリド及び代謝物 5 化合物 (IM-2-1, IM-0, IM-0-Glc, IC-0) (統一法)



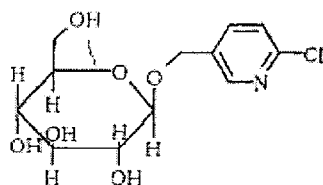
アセタミプリド (NI-25)



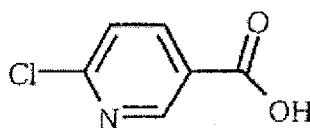
IM-2-1



IM-0



IM-0-Glc



IC-0

② 分析法の概要

・ GC法

アセトン抽出後、酢酸エチルに転溶し、ケイ酸マグネシウムミニカラムで精製後、アルカリ熱イオン化検出器又は高感度窒素・リン酸検出器付きガスクロマトグラフで定量する。

・ HPLC法

アセトンで抽出、多孔性ケイソウ土カラムを通した後、ケイ酸マグネシウムミニカラムで精製し、高速液体クロマトグラフを用いて定量する。

・ 統一法

メタノールで抽出後、水酸化ナトリウムで加水分解し、更に過マンガン酸カリウムで酸化し、すべての化合物を同一化合物 (IC-0) とする。ジクロロメタン+アセトンに転溶後、ジアゾメタンを用いて、エステル化し、カラムクロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフ (⁶³Ni ECD等) で定量する。

(2) 作物残留試験結果

作物残留試験においては、代謝物については、個別の定量は示されておらず、アセタミプリド 又は 代謝物をアセタミプリドに換算した分析値として記載されている。

①-1 どうもろこし

とうもろこし（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量^{（注1）}は、<0.05、<0.05ppmであった。

①-2 未成熟とうもろこし

未成熟とうもろこし（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

未成熟とうもろこし（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、18%液剤の64倍希釈液を3回散布〔（3.2L/10a）産業用無人ヘリによる散布〕したところ、散布後14日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

② あずき

あずき（乾燥種実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は、<0.06、0.60ppmであった。

③ ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200～300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は、0.06、0.02ppm（統一法）であった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の撒溝処理（1回）（6kg/10a）及び20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植溝土壌混和（1回）（6kg/10a）及び18%液剤の64倍希釈液を3回散布〔（3.2L/10a）無人ヘリによる散布〕したところ、散布後7日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

④ さといも

さといも（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の播溝散布処理を1回散布（6kg/10a）したところ、散布後160、183日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑤ やまのいも

やまのいも（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7、14日の最大残留量は0.01、0.01ppmであった。

⑥ こんにゃくいも

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元土壌混和を1回（3kg/10a）行ったところ、散布後134、136日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑦ てんさい

てんさい（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の120倍希釈液を1回処理〔(6L/m² (10a相当)) 植え付け相当分苗床灌注〕したところ、処理後162、167日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑧ ⑨ だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の播溝処理を1回（4kg/10a）したところ、散布後42、70日の最大残留量は0.03、<0.01ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（100~200/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.01、<0.01ppmであった。

だいこん（つまみ菜）（間引き菜）を用いた作物残留試験（2例）において2%粒剤の播溝処理を1回（4kg/10a）したところ、散布後13、12日の最大残留量は1.98、0.397ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において2%粒剤の播溝処理を1回（4kg/10a）したところ、散布後42、70日の最大残留量は0.28、0.03ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（100~200/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.06、0.24ppmであった。

⑧ ⑨ はつかだいこん

はつかだいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.01、<0.01ppmであった。

はつかだいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑩ ⑪ かぶ

かぶ（根）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（306.8又は242.4L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は、0.02、0.02ppmであった

かぶ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（306.8又は242.4L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は1.02、1.57ppmであった。

⑫ ワサビダイコン

ワサビダイコン（根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.01、<0.01ppmであった。

⑬ はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の1000倍希釈液を3回散布（64～150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.15、0.18ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑭-1 キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の1000倍希釈液を5回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は1.09、0.90ppmであった。

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の1000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.24、0.42ppmであった。

⑭-2 メキャベツ

メキャベツ（芽球）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後6、7日の最大残留量は、<0.05、0.10ppmであった。

⑮ こまつな

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.00、1.76ppmであった。

⑩ みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.00、2.25ppmであった。

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.44、1.75ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑪ チンゲンサイ

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（1g/株）1回及び20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後14、7日の最大残留量は2.72、1.22ppmであった。

⑫ カリフラワー

カリフラワー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200、266.7～300L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.18、0.34ppmであった。

⑬ ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の1000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.36、0.64ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑭-1,2 非結球メキャベツ

非結球メキャベツ（えき芽葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.60、0.68ppmであった。

非結球メキャベツ（本葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.88、2.85ppmであった。

⑭-3 茎ブロッコリー

茎ブロッコリー（花蕾及び茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.40、0.12ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑳-4 なずな

なずな（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.24、0.48ppmであった。

⑳-5 ひこしまはるな

ひこしまはるな（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴土壌混和を1回散布（1g/株）したところ、散布後53、54日の最大残留量は、<0.1、<0.1ppmであった。

㉑ しゅんぎく

しゅんぎく（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を2回散布（300、150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、2.02、0.39ppmであった。

㉒-1 レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150～250L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.08、0.31ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和处理（2g/株）1回及び20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（80.8～200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.54、0.34ppmであった。

㉒-2 リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（245～257.257.1L/10a）散布、及び2%粒剤の定植時株元散布（0.5g/株）したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.68、1.48ppmであった。

㉒-3 ロメインレタス

ロメインレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（200、300L/10a）及び2%粒剤の定植時株元散布（0.5g/株）したところ、散布後7～21日の最大残留量は2.67、1.02ppmであった。

㉓-1 くきちしゃ

くきちしゃ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

㉓-2 ははこぐさ（ゴギョウ）

ははこぐさ（ゴギョウ）（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.34、0.77ppmであった。

㉓-3 食用ぎく

食用ぎく（花卉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（150、200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、1.26、0.48ppmであった。

㉓-4,5 ふき

ふき（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の定植直後株元散布を1回（2g/株）及び20%水溶剤の3000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、0.10、0.06ppmであった。

ふき（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元散布を1回（2g/株）したところ、散布後82、100日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

㉔ たまねぎ

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

㉕-1,2 葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.14、0.15ppmであった。

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元散布を3回（6kg/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

㉕-3,4 根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、

<0.05ppmであった。

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を株元処理を3回（6kg/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑳ には

には（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、1.46、1.84ppmであった。

㉑ アスパラガス

アスパラガス（茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は0.20ppmであった。

アスパラガス（茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は0.07ppmであった。

㉒ わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤（6kg/10a）1回散布及び20%水溶剤の2000倍希釈液（300、278L/10a）3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は、1.36、0.14ppmであった。

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤（6kg/10a）1回散布及び20%水溶剤の4000倍希釈液（300、278L/10a）3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は、0.40、<0.05ppmであった。

㉓-1 食用ゆり

食用ゆり（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を4回散布（150、200L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

㉓-2 らっきょう

らっきょう（鱗茎）を用いた作物残留試験（3例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150、200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.01、0.03、0.02ppmであった。

⑩ パセリ

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後3日の最大残留量は、1.10、0.39ppmであった。

⑪ セロリ

セロリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の定植時植穴土壌混和を1回（0.5g/株）したところ、散布後71、100日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

セロリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（250、235L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.85、0.30ppmであった。

⑫ みつば

みつば（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（150、200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.97、1.82ppmであった。

⑬-1 ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、15%燻煙剤の燻煙処理（50g/400m³）及び2%粒剤（1g/株）定植時植穴土壌混和したところ、散布後1日の最大残留量は、0.16、<0.05ppmであった。

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（300L/10a）及び2%粒剤の定植時植穴土壌混和（1g/株）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.50、0.73ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を定植時植穴土壌混和（1g/株）及び1%粒剤を生育期株元散布（2g/株）したところ、散布後1日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑬-2 トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍液希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.23、0.42ppmであった。

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希

积液を2回散布(300L/10a)したところ、散布後1日の最大残留量は、0.21、0.46ppmであった。

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤の植穴混和处理(2g/株)1回及び20%水溶剤の2000倍液希釈液を2回散布(200L/10a)したところ、散布後1、3日の最大残留量は、0.20、0.20ppmであった。

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、15%燻煙剤を2回燻煙(50g/400m³)したところ、散布後1、3日の最大残留量は、0.02、0.04ppmであった。

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤の定植時植穴混和(2g/株)1回及び株元散布(1g/株)2回処理したところ、散布後1日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

③4 ピーマン

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤の植穴混和处理(1g/株)1回散布したところ、散布後93、44日の最大残留量は、0.04、0.15ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍液希釈液を3回散布(250~300/10a)したところ、散布後1日の最大残留量は、2.33、1.45ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、15%燻煙剤を3回散布(50g/400 m²)したところ、散布後1日の最大残留量は0.24ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、15%燻煙剤を3回散布(50g/400 m²)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.20ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤の植穴混和处理(1g/株)1回処理したところ、処理後84、78日の最大残留量は、0.03、0.01ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の4000倍液希釈液を2回散布(200~400/10a)したところ、散布後1日の最大残留量は、0.18、0.40ppmであった。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を植穴土壌混和処理（0.5g/株）1回及び1%粒剤を生育期株元散布（2g/株）2回処理したところ、散布後1日の最大残留量は、 <0.05 、 0.05ppm であった。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴土壌混和処理（0.5g/株）1回及び15%燻煙剤を2回燻煙（ $50\text{g}/400\text{m}^2$ ）したところ、散布後1日の最大残留量は、 0.24 、 0.14ppm であった。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の定植時植穴土壌混和処理（0.5g/株）1回散布及び20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（150、220.4L/10a）茎葉散布したところ、散布後1日の最大残留量は、 0.32 、 0.43ppm であった。

㊦ なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理を1回散布（1g/株）したところ、散布後63、60日の最大残留量は、 0.04 、 0.02ppm であった。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～3日の最大残留量は、 0.150 、 0.584ppm （GC法）であった。ただし、これらの結果は1機関での分析とされる。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は、 0.51 、 0.33ppm （統一法）であった。ただし、これらの結果は1機関での分析とされる。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理を1回処理（1g/株）及び20%水溶剤の2000倍希釈を3回散布（150、400L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、 0.50 、 0.27ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理を1回処理（1g/株）及び15%燻煙剤を3回処理（ $50\text{g}/400\text{m}^2$ ）したところ、散布後1日の最大残留量は、 0.14 、 0.12ppm であった。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の定植時植穴混和処理を1回処理（1g/株）及び1%粒剤を3回生育期株元散布（2g/株）したところ、散布後1日の最大残留量は、 <0.05 、 $<0.05\text{ppm}$ であった。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、15%燻煙剤を3回散布（50g/400m³）したところ、散布後1～7日の最大残留量は、0.07、0.23ppmであった。

③⑥-1 とうがらし類

とうがらし類（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を2回散布（200、267.56L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.16、0.07ppmであった。

③⑥-2 ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後8、7日の最大残留量は、0.36、0.28ppmであった。

③⑥-3 食用ほおずき

食用ほおずき（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

③⑦ きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元散布を1回散布（1g/株）したところ、散布後48、46日の最大残留量は、0.09、0.02ppmであった。

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（171～300L/10a）したところ、散布後1、3日の最大残留量は0.42、0.26ppmであった。

きゅうり（果実）において、15%燻煙剤を3回燻煙（50g/400m³）したところ、散布後3、1日の最大残留量は、0.32、0.52ppmであった。

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元散布を2回（定植時1g/株及び生育期0.5g/株）及び1%粒剤を3回散布（2g/株）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.10、<0.05ppmであった。

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を株元散布を2回（定植時1g/株及び生育期0.5g/株）及び15%燻煙剤を3回燻煙処理（50g/400m³）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.20、0.06ppmであった。

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を株元散布を

2回（定植時 1g/株及び生育期 0.5g/株）及び 20%水溶剤の 2000 倍希釈を 3 回散布（150～200L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.29、0.29ppm であった。

③⑨-1, 2 かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布（300L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は、<0.05、0.21ppm であった。

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、2%粒剤の定植時植穴土壌混和（1g/株）及び 20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布（300 又は 200L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.06、0.08ppm であった。

③⑨-3 ズッキーニ

ズッキーニ（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、15%燻煙成型剤の燻煙処理を 2 回処理（50g/400m³）したところ、燻煙後 1 日の最大残留量は、<0.01、<0.01ppm であった。

④⑩ すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、15%燻煙剤を 3 回処理（50g/400 m²）したところ、処理後 7、3 日の最大残留量は、0.06、0.09ppm であった。

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、2%粒剤の定植時植穴土壌混和（2g/株）1 回及び 20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布（200L/10a）したところ、散布後 7、14 日の最大残留量は、0.06、0.07ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

④⑪ メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布（200・300L/10a）したところ、散布後 7、14 日の最大残留量は、0.14、0.03ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、2%粒剤の定植時植穴土壌混和（2g/株）1 回及び 20%水溶剤の 8000 倍希釈液を 3 回散布（150～200L/10a）したところ、散布後 3、7 日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、15%燻煙剤を 3 回処理

(50g/400 m²) したところ、処理後 7 日の最大残留量は、0.16、0.14ppm であった。

④② にがうり

にがうり（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 4000 倍希釈液を 3 回散布（200L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.16、0.20ppm であった。

④③-1 ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 8000 倍希釈液を 2 回散布（150～200L/10a）したところ、散布後 3 日の最大残留量は、2.52、1.66ppm であった。使用方法について、散布後 14 日への見直し（④③-2 参照）を行ったところ、最大残留量は、0.42、0.06ppm となった。

④③-2 ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 8000 倍希釈液を 2 回散布（200L/10a）したところ、散布後 3 日の最大残留量は、13.0、2.10ppm であった。短期暴露量推計の試算も勘案し、使用方法について、散布後 14 日への見直しを行ったところ、最大残留量は、1.52、0.32ppm となった。

④④ オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 4000 倍液希釈液を 1～3 回散布（150 L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.18、0.41ppm であった。

④⑤ さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 4000 倍希釈液を 3 回散布（300L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は 0.84、0.26ppm であった。

④⑥ さやいんげん（さや）

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.52、0.26ppm であった。

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布（150～400L/10a）したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.50、1.45ppm であった。

④⑦-1 えだまめ（さや）

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の土壌混和処理（3kg/10a）及び20%水溶剤の2000倍希釈液散布（150L/10a）を3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は、1.42、0.83ppmであった。

④7-2 えだまめ（さや）

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.31、1.48ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

④8-1 エンサイ

エンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.42、2.03ppmであった。

④8-2 ふだんそう

ふだんそう（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（150、200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.62、1.94ppmであった。

④8-3 つるな

つるな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、1.8、2.8ppmであった。

④8-4 モロヘイヤ

モロヘイヤ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は、1.01、0.52ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

④8-5 食用さくら（葉）

食用さくら（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後3日の最大残留量は、1.22、0.33ppmであった。

④8-6 やまのいも（むかご）

むかご（やまのいも）（珠芽）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は、0.15、0.08ppmであった。

④ 温州みかん

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14、21日の最大残留量は、2.76、1.22ppmであった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、0.17、0.02ppmであった。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、15%燻煙剤を3回処理（50g/400 m²）したところ、処理後3日の最大残留量は、1.54、0.74ppmであった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、15%燻煙剤を3回処理（50g/400 m²）したところ、処理後3日の最大残留量は、0.08、0.05ppmであった。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の200倍希釈液を3回散布（樹幹散布）（30L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の200倍希釈液を3回散布（樹幹散布）（30L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑤ 夏みかん

夏みかん（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、0.54、0.90ppmであった。

夏みかん（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の200倍希釈液を3回散布（樹幹散布）（30L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑤-1,2 かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、0.88、0.53ppmであった。

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水溶剤の200倍希釈液を3回散布（樹幹散布）（30L/10a）したところ、散布後16日の最大残留量は、

<0.05ppmであった。

⑤-3 すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水溶剤の200倍希釈液を3回散布（樹幹散布）（30L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05ppmであった。

⑤ りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、0.19、0.44ppmであった。

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（500L/10a）したところ、散布後7、14日の最大残留量は、0.5、<0.2ppmであった。

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（500、600L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.41、0.50ppmであった。

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.39、0.80ppmであった。

⑤ なし

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（350、700L/10a）したところ、散布後3日の最大残留量は、0.18、0.28ppmであった。

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後14、21日の最大残留量は、0.34、0.12ppmであった。

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（400、600L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.28、0.74ppmであった。

⑤ びわ

びわ（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水溶剤の2000倍希釈

液を3回散布(400L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は、 $<0.01\text{ppm}$ であった。

びわ(果肉)を用いた作物残留試験(1例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布(400L/10a)したところ、散布後1日の最大残留量は、 0.02ppm であった。

⑤⑤ もも

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布(400L/10a)したところ、散布後7日の最大残留量は、 0.42 、 0.23ppm であった。

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布(400、500L/10a)したところ、散布後3日の最大残留量は、 0.69 、 0.36ppm であった。

⑤⑥ ネクタリン

ネクタリン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布(600、700L/10a)したところ、散布後3日の最大残留量は 0.28 、 0.42ppm であった。

⑤⑦ すもも

すもも(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布(400L/10a)したところ、散布後7日の最大残留量は、 0.12 、 1.23ppm であった。

⑤⑧ うめ

うめ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布(400L/10a)したところ、散布後7、21日の最大残留量は、 1.10 、 0.62ppm であった。

⑤⑨ おうとう

おうとう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(500、700L/10a)したところ、散布後3日の最大残留量は、 0.92 、 0.68ppm であった。

⑥⑩ いちご

いちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の4000倍希

积液を2回散布(150L/10a)したところ、散布後3、1日の最大残留量は、0.18、0.44ppmであった。

いちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希积液を2回散布(200L/10a)及び2%粒剤の植穴混和处理を(1g/株)1回処理したところ、散布後1日の最大残留量は、0.86、0.78ppmであった。

いちご(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、20%水溶剤の4000倍希积液を2回散布(200L/10a)及び2%粒剤の植穴混和处理を(1g/株)1回処理したところ、散布後1日の最大残留量は0.70ppmであった。

いちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希积液を2回散布(200L/10a)及び2%粒剤の植穴混和处理を(1g/株)1回処理したところ、散布後1日の最大残留量は、0.46、1.38ppmであった。

いちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、15%燻煙剤を2回散布(50g/360~400m³)したところ、散布後1日の最大残留量は、0.41、0.41ppmであった。

⑥ ブルーベリー

ブルーベリー(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の4000倍希积液を1回散布(300L/10a)したところ、散布後1日の最大残留量は、<0.5、1.0ppmであった。

⑦ ぶどう

ぶどう・デラウェア(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希积液を2回散布(250L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は、2.88、2.51ppmであった。

ぶどう・デラウェア(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希积液を2回散布(200、250L/10a)したところ、散布後14、11日の最大残留量は1.47、2.36ppmであった。ただし、後者の試験は適用の範囲内でおこなわれていない。

ぶどう・巨峰(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、20%水溶剤の2000倍希积液を2回散布(250L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.24ppmであった。

ぶどう・巨峰(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、2%粒剤を2回樹

冠下散布 (6kg/10a) したところ、散布後 14 日の最大残留量は、 $<0.05\text{ppm}$ であった。

ぶどう・デラウェア (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、2%粒剤の樹冠下散布を 2 回散布 (6kg/10a) したところ、散布後 14 日の最大残留量は、 $<0.05\text{ppm}$ であった。

ぶどう (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 14 日の最大残留量は、0.98、1.14 ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑥③ かき

かき (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布 (400、420L/10a) したところ、散布後 7 日の最大残留量は、0.40、0.20ppm であった。

⑥④ キウイフルーツ

キウイフルーツ (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布 (260、500L/10a) したところ、散布後 7 日の最大残留量は、 <0.05 、 $<0.05\text{ppm}$ であった。

⑥⑤ マンゴー

マンゴー (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布 (300、700L/10a) したところ、散布後 35、21 日の最大残留量は、0.44、0.44ppm であった。ただし、後者の試験は適用の範囲内で行われていない。

⑥⑥ パッションフルーツ

パッションフルーツ (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布 (312.5、267L/10a) したところ、散布後 28 日の最大残留量は、0.04、0.30ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑥⑦-1 いちじく

いちじく (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布 (400L/10a) したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.44、0.47ppm であった。

⑥⑦-2 アセロラ

アセロラ (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 4000 倍希釈液を 2 回散布 (556、220L/10a) したところ、散布後 7 日の最大残留量は 0.22、0.40ppm

であった。

⑥7-3 カリン

カリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の1000倍希釈液を1回散布（40L/2樹）及び20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（400L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、0.34、0.24ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑥7-4 あけび

あけび（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（500L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.17、<0.05ppmであった。

⑥8 茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後13、14日の最大残留量は、9.88、12.0ppmであった。ただし、前者の試験は適用の範囲内でおこなわれていない。

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後13、14日の最大残留量は、19.8、21.4ppmであった。ただし、前者の試験は適用の範囲内でおこなわれていない。

茶（製茶）を用いた作物残留試験（2例）において、18%液剤の2000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、5.47、5.40ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑥9, ⑦0-1 さんしょう

さんしょう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後7、21日の最大残留量は、2.0、2.3ppmであった。

さんしょう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の200倍希釈液を3回樹幹散布（20L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.2、<0.2ppmであった。

さんしょう（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を6回散布（150L/10a）したところ、散布後45日の最大残留量は、<0.4、1.2ppmであった。

⑦⑩-2 しそ

しそ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2又は3回散布（300L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、それぞれ、0.65、0.50ppmであった。ただし、後者の試験は適用範囲内で行われていない。

⑦⑩-3 セージ

セージ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は、1.9、<0.5ppmであった。

セージ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は、0.9、<0.5ppmであった。

⑦⑩-4 タイム

タイム（茎葉及び花）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は0.6、2.4ppmであった。

⑦⑩-5 オレガノ

オレガノ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.4、2.1ppmであった。

⑦⑩-6 あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150～200L/10a）及び2%粒剤の植溝土壌混和処理（1回）（6kg/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.42、0.56ppmであった。

⑦⑩-7 レモンバーム

レモンバーム（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、2.4、0.5ppmであった。

⑦⑩-8-(1) はっか（スペアミント）

はっか（スペアミント）（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、2.4、2.3ppmであった。

⑦-8-(2) はっか (スペアミント)

はっか (スペアミント) (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 4000 倍希釈液を 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 7 日の最大残留量は、3.3、4.0ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑦-9 タラゴン

タラゴン (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 4000 倍希釈液を 2 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 14 日の最大残留量は、1.3、2.06ppm であった。

⑦-10 チャービル

チャービル (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 8000 倍希釈液を 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 21 日の最大残留量は、1.0、1.6ppm であった。

⑦-11 デイル

デイル (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 8000 倍希釈液を 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 21 日の最大残留量は、0.5、0.46ppm であった。

⑦-12 バジル

バジル (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 8000 倍希釈液を 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 21 日の最大残留量は、1.9、1.5ppm であった。

⑦-13 みょうが

みょうが (花穂) を用いた作物残留試験 (4 例) において、15%燻煙成型剤を 3 回処理 (50g/400m³) したところ、散布後 1、3 日の最大残留量は、<0.04、0.03ppm であった。

⑦-14 マジョラム

マジョラム (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 8000 倍希釈液を 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 14 日の最大残留量は、0.5、2.8ppm であった。

これらの試験結果の概要については、別紙 1-1、海外で実施された作物残留試験成績の結果の概要については、別紙 1-2 を参照。

注 1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に使い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験 (いわゆる最大使用条件下の作物残留試験) を実施し、それぞ

れの試験から得られた残留量。

(参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」)

注2) 適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

7. 乳牛における残留試験

乳牛に対して、飼料中濃度として 0, 6, 18, 60 ppm に相当する量のアセタミプリドを封入したカプセルを1日1回、28日間にわたって強制経口投与し、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び牛乳に含まれるアセタミプリド及び代謝物 IM-2-1 の含量が測定された(定量下限：0.01~0.05 ppm)。

18 ppm 以上の投与群から 筋肉、脂肪、肝臓に、60 ppm 投与群から 腎臓に アセタミプリドの検出が認められ、全ての投与群で、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓に 代謝物 IM-2-1 の検出が認められた。

牛乳については、全ての投与群から、アセタミプリド及び代謝物 IM-2-1 の検出が認められ、アセタミプリドは約1日後に、代謝物 IM-2-1 は約8日後に、平衡濃度に達するものと推察された(結果については、下表参照)。

表. 乳牛 組織中の親化合物及び代謝物の残留 (ppm) (平均値)

	6 ppm 投与群		18 ppm 投与群		60 ppm 投与群	
	アセタミ プリド	代謝物 IM-2-1	アセタミ プリド	代謝物 IM-2-1	アセタミ プリド	代謝物 IM-2-1
筋肉	<0.01	0.038	0.019	0.16	0.074	0.90
脂肪	<0.01	0.027	0.011	0.064	0.033	0.33
肝臓	<0.05	0.10	0.053	0.39	0.16	2.1
腎臓	<0.05	0.19	<0.05	0.65	0.094	2.3
牛乳	0.012~0.016	0.031~0.059	0.042~0.059	0.13~0.21	0.17~0.21	0.54~0.95

注) 筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓は 28 日後の、牛乳は 投与期間中の残留値

上記の結果に関連して、米国では、肉牛及び乳牛における最大理論的飼料負荷 (MTDB)^{注)} は、4.5 ppm と評価されている。

注) 最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden : MTDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

(参考 : Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

なお、ヤギに対して、¹⁴C 標識したアセタミプリドを、7 日間強制経口投与 (飼料中

濃度として、1, 10 ppm 相当) した運命試験において、可食部 (筋肉、脂肪、肝臓、腎臓)、乳汁に含まれるアセタミプリド及び代謝物が測定されている。その結果、吸収されたアセタミプリドは、代謝され、主な組織残留物は、筋肉では代謝物 IM-2-2、その他の組織では代謝物 IM-2-1 と同定されている。組織中での残留は少ないとされ、大部分は速やかに尿中に排泄されるものと考えられている。

また、食品安全委員会によって作成された食品健康影響評価において、アセタミプリドが乳汁中に蓄積する可能性は低いと記載されている。

8. 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対して、飼料中濃度として 0, 1.2, 3.6, 12 ppm に相当する量のアセタミプリドを封入したカプセルを 1 日 1 回、28 日間にわたって強制経口投与し、筋肉、脂肪、肝臓及び卵に含まれるアセタミプリド及び代謝物 IM-2-1 含量が測定された (定量下限: 0.01 ppm)。いずれの投与群においても、組織中のアセタミプリドは定量下限未満であり、全ての投与群から肝臓及び卵に、3.6 ppm 以上の投与群から筋肉に、12 ppm 投与群から脂肪に代謝物 IM-2-1 の検出が認められた。鶏卵中の代謝物 IM-2-1 は、約 8 日後に平衡濃度に達するものと推察された (結果については、下表参照)。

表. 産卵鶏 組織中の親化合物及び代謝物の残留 (ppm) (平均値)

	1.2 ppm 投与群		3.6 ppm 投与群		12 ppm 投与群	
	アセタミ プリド	代謝物 IM-2-1	アセタミ プリド	代謝物 IM-2-1	アセタミ プリド	代謝物 IM-2-1
筋肉	<0.01	<0.01	<0.01	0.023	<0.01	0.069
脂肪	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	0.011
肝臓	<0.01	0.067	<0.01	0.18	<0.01	0.47
卵	<0.01	0.012~0.028	<0.01	0.042~0.093	<0.01	0.12~0.31

注) 筋肉、脂肪及び肝臓は 28 日後の、卵は 投与期間中の残留値

上記の結果に関連して、米国では、綿実加工品のあら粉が飼料に用いられる可能性に配慮して、家禽のトレランスが設定されたもの (メーカー) と考えられる。

なお、産卵鶏に対して、¹⁴C 標識したアセタミプリド (飼料中濃度として、1, 10 ppm 相当) を 14 日間強制経口投与した運命試験において、可食部 (筋肉、脂肪、肝臓)、卵 (卵白・卵黄) 等に含まれるアセタミプリド及び代謝物が測定されている。その結果、吸収されたアセタミプリドは、代謝され、主な組織残留物は代謝物 IM-2-1 と同定されている。組織での残留は少なく、速やかに糞中に排泄されるものと考えられている。卵での回収率は、投与量の 1.3~1.4% と算出されている。

また、食品安全委員会によって作成された食品健康影響評価において、卵黄・卵白中にアセタミプリドが蓄積する可能性は低いと記載されている。

9. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号及び同法第24条第2項の規定に基づき、平成20年2月12日付け厚生労働省発食安第0212003号により食品安全委員会あて意見を求めたアセタミプリドに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

・ADI

無毒性量：7.1 mg/kg 体重/day（発がん性は認められていない）

（試験の種類） 慢性毒性／発がん性併合試験

（動物種） ラット

（投与方法） 混餌投与

（期間） 2年間

安全係数：100

ADI：0.071 mg/kg 体重/day

（参考）急性参照用量（ARfD）

無毒性量：10 mg/kg 体重

（試験の種類） 急性神経毒性試験

（動物種） ラット

（投与方法） 強制経口投与

（期間） 単回

安全係数：100

ARfD：0.1 mg/kg 体重/日

10. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価はされておらず、国際基準は設定されていない。米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査したところ、米国において、葉菜類、ベリー類果実、畜産物等に、カナダにおいて、アブラナ科野菜、なす科野菜、畜産物等に、オーストラリアにおいて、ばれいしょ、綿実、畜産物等に、EUにおいて、葉菜類、畜産物等に基準値が設定されている。

11. 基準値案

（1）残留の規制対象

・農産物 アセタミプリド

・畜産物 アセタミプリド及び代謝物 IM-2-1 (N^1 -[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]- N^2 -シアノアセトアミジン) に分子量の比である 1.067 を係数として乗じ、アセタミプリドに換算したものの和

植物体内運命試験において、アセタミプリド、代謝物 IM-2-1、IM-1-4、IM-0、IC-0、IS-1-1、IS-2-1、IM-0-Glc 等の分析が行われている。代表的な農産物について、基準値設定に参照する最大残留となる使用時期には、親化合物アセタミプリドが大部分を占めているとの記載がされていること及び従前の規制対象の取扱いを加味し、農産物の規制対象として代謝物を含めないこととした。なお、作物残留試験で統一法による結果と個別法（GC 法又は HPLC 法）の結果の両方が報告されている場合で、両方の残留値の差が大きい場合は、個別法によるアセタミプリドの値を採用して基準値を設定することとし、両者の結果が類似の場合及び統一法の結果のみが報告されている場合は、統一法の値をアセタミプリドの残留値と同等に扱って基準値を設定することとした。

一方、畜産物移行性試験においては、アセタミプリドのほか、主要代謝物として IM-2-1 が、親化合物のアセタミプリドを上回る濃度で検出が認められている。米国、カナダ、オーストラリアにおいて、アセタミプリド及び代謝物を畜産物の規制対象としていることも勘案し、畜産物の規制対象をアセタミプリド及び代謝物 IM-2-1 とした。

なお、食品安全委員会によって作成された食品健康影響評価において、農産物の暴露評価対象物質として、アセタミプリドを設定している。

(2) 基準値案

別紙 2 のとおりである。

なお、参考として、食品安全委員会より回付された 急性参照用量 (ARfD) に関して、今回の基準値(案)の設定に当たっては、2008年5月23日に開催された薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会での説明資料「短期暴露量推計：JMPRの手法と所要データについて」に沿って、平成20年度の厚生労働科学研究「食品中残留農薬等の汚染実態把握と急性暴露評価に関する研究」において、利用可能とされる暫定的なパラメータを用いて短期暴露評価の試算を行うことにより、所要の農作物（ほうれん草）における基準値案の調整と使用方法の見直しを行った。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のアセタミプリドが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大一日摂取量(TMDI)）のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙 3 参照（別紙 3 には、推定一日摂取量(EDI)を参考として併記した。）。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定のうえに行った。

	TMD I / AD I (%) ^{注)}
国民平均	21.6
幼小児 (1~6 歳)	42.3
妊婦	18.0
高齢者 (65 歳以上)	23.1

注) TMD I 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

- (4) 本剤については、平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号により、食品一般の成分規格 7 に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

アセタミプリド作物残留試験一覧表 (国内)

No	分類	農作物	試験圃数	試験条件				最大残留量 (ppm)		基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
1	とうもろこし	とうもろこし (種子)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC	< 0.05	} ○	0.05
							14日	圃場B (3回, 14日)	< 0.05		
		未成熟とうもろこし (種子)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC	< 0.05	/	/
							14日	圃場B (3回, 14日)	< 0.05		
		未成熟とうもろこし (種子)	2	18%液剤	64倍 産業用無人ヘリによる 航空散布 3.2L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) HPLC	< 0.05	/	/
							14日	圃場B (3回, 14日)	< 0.05		
2	小豆類	あずき (乾燥種実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a	3回	21日	圃場A (3回, 21日) HPLC	0.06	○	0.33
							21日	圃場B (3回, 21日) GC	0.60		
3	ばれいしょ	ばれいしょ (塊茎)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200~300L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) 統一	0.06	○	0.04
							7日	圃場B (3回, 7~21日) 統一	0.02		
		ばれいしょ (塊茎)	2	2%粒剤+20%水溶剤	6kg/10a (種穴処理:1回) +2000倍希 釈液散布 (200L/10a, 3回)	1+3回	7日	圃場A (4回, 7日) HPLC	< 0.05	/	(剤型違い)
							7日	圃場B (4回, 7日) GC	< 0.05		
		ばれいしょ (塊茎)	2	2%粒剤+18%液剤	6kg/10a 植溝土壌混和 3.2L/10a 64倍無人ヘリ散布	1+3回	7日	圃場A (4回, 7日) HPLC	< 0.05	/	(剤型違い)
							7日	圃場B (4回, 7日)	< 0.05		
4	さといも類 (含やつがしら)	さといも (塊茎)	2	2%粒剤	6kg/10a (播溝散布処理)	1回	183日	圃場A (1回, 183日) HPLC	< 0.05	} ○	0.05
							160日	圃場B (1回, 160日) GC	< 0.05		
5	やまいも (長いも)	やまいも (塊根)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) GC	0.01	} ○	0.01
							14日	圃場B (3回, 14日)	0.01		
6	こんにゃくいも	こんにゃくいも (球茎)	2	2%粒剤	3kg/10a (株元土壌混和)	1回	136日	圃場A (1回, 136日) HPLC	< 0.05	} ○	0.05
							134日	圃場B (1回, 134日) GC	< 0.05		
7	てんさい	てんさい (塊茎)	2	20%水溶剤	120倍, 6L/10a (#) (10a植付相当分苗床灌注)	1回	167日	圃場A (1回, 167日) (#) HPLC	< 0.05	} ○	0.05 (適用外使用)
							162日	圃場B (1回, 162日) (#) GC	< 0.05		
8	だいこん類 (根) (含 ラディッシュ)	だいこん (根部)	2	2%粒剤	4kg/m ² (播溝処理) (#)	1回	42日	圃場A (1回, 42日) (#) 統一	0.03	○	0.02 (適用外使用)
							70日	圃場B (1回, 70日) (#)	< 0.01		
		だいこん (根部)	2	20%水溶剤	2000倍散布 100~200L/10a	1回	14日	圃場A (1回, 14日) 統一	< 0.01	/	(剤型違い)
							14日	圃場B (1回, 14日)	< 0.01		
		はつかだいこん (根部)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a	1回	14日	圃場A (1回, 14日) HPLC	< 0.01	/	/
							14日	圃場B (1回, 14日)	< 0.01		

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)		
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数					
9	だいこん類 (葉) (含 ラディッシュ)	だいこん (つまみ菜) (間引き菜)	2	2%粒剤	4kg/10a (播溝処理) (#)	1回	13日	圃場A (1回, 13日) (#) GC 親	1.98	○	1.19 (適用外使用)	
							12日	圃場B (1回, 12日) (#) GC 親	0.397			
		だいこん (葉部)	2	2%粒剤	4kg/10a (播溝処理) (#)	1回	1回	42日	圃場A (1回, 42日) (#) 統一	0.28	/	(適用外使用)
								70日	圃場B (1回, 70日) (#)	0.03		
		だいこん (葉部)	2	20%水溶剤	2000倍散布 100~200L/10a	1回	1回	14日	圃場A (1回, 14日) 統一	0.06	/	(剤型違い)
								14日	圃場B (1回, 14日)	0.24		
		はつかだいこん (葉部)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a	1回	1回	14日	圃場A (1回, 14日) HPLC	< 0.05	/	/
								14日	圃場B (1回, 14日)	< 0.05		
10	かぶ類 (根)	かぶ (根)	2	20%水溶剤	2000倍散布 306.8又は242.4L/10a	1回	21日	圃場A (1回, 21日) HPLC	0.02	} ○	0.02	
							21日	圃場B (1回, 21日)	0.02			
11	かぶ類 (葉)	かぶ (葉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 306.8又は242.4L/10a	1回	21日	圃場A (1回, 21日) HPLC	1.02	○	1.30	
							21日	圃場B (1回, 21日)	1.57			
12	西洋ワサビ	ワサビダイコン (根茎) 西洋わさび	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a	1回	7日	圃場A (1回, 7日) HPLC	< 0.01	} ○	0.01	
							7日	圃場B (1回, 7日)	< 0.01			
13	はくさい	はくさい (茎葉)	2	2%粒剤+20%水 溶剤	(2g/株)植穴混和处理 (#) + 1000倍散布64~150L/10a(3 回)	1+3回	14日	圃場A (4回, 14日) (#) 統一	0.15	○	0.17 (適用外使用)	
							14日	圃場B (4回, 14日) (#)	0.18			
14	キャベツ (芽キャベツ)	キャベツ (葉球)	2	2%粒剤+20%水 溶剤	(2g/株)植穴混和处理+1000倍 散布150L/10a(5回)	1+5回	7日	圃場A (6回, 7日) 統一	1.09	○	1.00	
							7日	圃場B (6回, 7日)	0.90			
		キャベツ (葉球)	2	2%粒剤+20%水 溶剤	(2g/株)植穴混和处理+1000倍 散布150L/10a(3回)	1+3回	1+3回	14日	圃場A (4回, 14日) 統一	0.24	/	(7日目の データ無し)
								14日	圃場B (4回, 14日)	0.42		
		メキャベツ (芽球)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	1回	1回	6日	圃場A (1回, 6日) HPLC	< 0.05	○	0.08
								7日	圃場B (1回, 7日)	0.10		
15	こまつな	こまつな (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150L/10a(1回)	1回	7日	圃場A (1回, 7日) HPLC	1.00	○	1.38	
							7日	圃場B (1回, 7日) GC	1.76			
16	きょうな	みずな (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 200L/10a(1回)	1回	7日	圃場A (1回, 7日) GC	1.00	○	1.63	
							7日	圃場B (1回, 7日)	2.25			
		みずな (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 200L/10a(2回)	2回 (#)	2回 (#)	7日	圃場A (2回, 7日) (#) GC	1.44	/	(適用外使用)
								7日	圃場B (2回, 7日) (#)	1.75		
17	チンゲンサイ	チンゲンサイ (茎葉)	2	2%粒剤+20%水 溶剤	(1g/株)植穴混和处理+2000 倍散布200L/10a(1回)	1+1回	7日	圃場A (2回, 7日 → 14日) GC	2.72	○	1.97	
							7日	圃場B (2回, 7日)	1.22			
18	はなやさい (カリフラワー)	カリフラワー (花蕾)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200, 266, 7~300L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) HPLC	0.18	○	0.26	
							7日	圃場B (3回, 7日)	0.34			
19	はなやさい (ブロッコリー)	ブロッコリー (花蕾)	2	2%粒剤+20%水 溶剤	(2g/株)植穴混和处理+1000倍 散布150L/10a(3回) (#)	1+3回	14日	圃場A (4回, 14日) (#) 統一	0.36	○	0.50 (適用外使用)	
							14日	圃場B (4回, 14日) (#)	0.64			

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数			
20	その他のアブラナ科野菜	非結球メキャベツ (えき芽葉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC 0.60	/	(検査部位の違い)
							7日	圃場B (2回, 7日) 0.68		
		非結球メキャベツ (本葉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC 0.88	○	1.87
							7日	圃場B (2回, 7日) 2.85		
		茎ブロッコリー (花蕾及び茎)	2	20%水溶剤	2000倍散布 (#) 200L/10a	2回	2日	圃場A (2回, 1日) (#) HPLC 0.40	/	(適用外使用)
					2日	圃場B (2回, 1日) (#) 0.12				
21	しゅんぎく	なずな (その他のアブラナ科野菜) (茎葉部)	2	20%水溶剤	8000倍散布 200L/10a	1回	7日	圃場A (1回, 7日) HPLC 0.24	/	
							7日	圃場B (1回, 7日) 0.48		
		ひこしまはるな (その他のアブラナ科野菜) (茎葉部)	2	2%粒剤	1g/株 植穴土壌混和	1回	53日	圃場A (1回, 53日) HPLC < 0.1	/	
						54日	圃場B (1回, 54日) < 0.1			
22	レタス (含 チシャ、サラダナ)	しゅんぎく (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300, 150L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) HPLC 2.02	○	1.21
							14日	圃場B (2回, 14日) GC 0.39		
23	その他のきく科野菜	レタス (茎葉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 (#) 150~250L/10a (3回)	3回	7日	圃場A (3回, 7日) (#) GC 0.08	/	(適用外使用)
							7日	圃場B (3回, 7日) (#) 0.31		
		レタス (茎葉)	2	2%粒剤+20%水溶剤	2g/株 植穴混和 2000倍散布 200~800L/10a (3回)	1+3回	7日	圃場A (4回, 7日) GC 0.54	/	
							7日	圃場B (4回, 7日) 0.34		
		リーフレタス (茎葉)	2	20%水溶剤+2%粒剤	4000倍散布245~257.1L/10a 0.5g/株 定植時株元散布	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC 1.68	/	
					7日	圃場B (2回, 7日) 1.48				
		ロメインレタス (茎葉)	2	20%水溶剤+2%粒剤	4000倍散布200又は300L/10a 0.5g/株 定植時株元散布	2回	7日	圃場A (2回, 7日 → 14日) HPLC 2.67	○	1.85
						7日	圃場B (2回, 7日) 1.02			
23	その他のきく科野菜	くきちしゃ (その他のキク科野菜) (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC < 0.05	/	
							7日	圃場B (2回, 7日) < 0.05		
		ははこぎき (ゴギョウ) (その他のキク科野菜) (茎葉部)	2	20%水溶剤	8000倍散布 200L/10a	1回	7日	圃場A (1回, 7日) HPLC 0.34	/	
							7日	圃場B (1回, 7日) 0.77		
		食用ぎく (その他のキク科野菜) (花卉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150, 200L/10a (2回)	2回	14日	圃場A (2回, 14日) GC 1.26	○	0.87
							14日	圃場B (2回, 14日) 0.48		
		ふき (葉柄)	2	2%粒剤+20%水溶剤	2g/株 定植直後株元散布 3000倍300/10a, 2回散布	1+2回	14日	圃場A (3回, 14日) HPLC 0.10	/	
					14日	圃場B (3回, 14日) 0.06				
ふき (葉柄)	2	2%粒剤	2g/株 株元散布	1回	82日	圃場A (1回, 82日) GC < 0.05	/			
					100日	圃場B (1回, 100日) < 0.05				

No	分類	農作物	試験圃数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)	
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
24	たまねぎ	たまねぎ (鱗茎)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) HPLC	< 0.05	} ○	0.05
							7日	圃場B (3回, 7日) GC	< 0.05		
25	ねぎ (含 リーキ)	葉ねぎ (茎葉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a (3回)	3回	7日	圃場A (3回, 7日) GC	0.14	○	0.15
		葉ねぎ (茎葉)	2	2%粒剤	6kg/10a株元処理	3回	7日	圃場B (3回, 7日)	0.15		
		葉ねぎ (茎葉)	2	2%粒剤	6kg/10a株元処理	3回	7日	圃場A (3回, 7日) GC	< 0.05	/	(剤型違い)
		葉ねぎ (茎葉)	2	2%粒剤	6kg/10a株元処理	3回	7日	圃場B (3回, 7日)	< 0.05		
		根深ねぎ (茎葉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a (3回)	3回	7日	圃場A (3回, 7日) GC	< 0.05	/	
		根深ねぎ (茎葉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a (3回)	3回	7日	圃場B (3回, 7日)	< 0.05		
		根深ねぎ (茎葉)	2	2%粒剤	6kg/10a株元処理	3回	7日	圃場A (3回, 7日) HPLC	< 0.05	/	
		根深ねぎ (茎葉)	2	2%粒剤	6kg/10a株元処理	3回	7日	圃場B (3回, 7日) GC	< 0.05		
26	にら	にら (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150L/10a (3回)	3回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC	1.46	○	1.65
							1日	圃場B (3回, 1日) GC	1.84		
27	アスパラガス	アスパラガス (茎)	1	20%水溶剤	4000倍散布 400L/10a (1回)	2回	1日	圃場A (2回, 1日) HPLC	0.20	○	0.14
		アスパラガス (茎)	1	20%水溶剤	4000倍散布 400L/10a (1回)	2回	1日	圃場A (2回, 1日) HPLC	0.07		
28	ワケギ	わけぎ (その他のゆり科野菜) (茎葉)	2	20%水溶剤+2% 粒剤	2000倍散布300又は278L/10a 6kg/10a散布	4回	7日	圃場A (4回, 7日) HPLC	1.36	○	0.75
							7日	圃場B (4回, 7日)	0.14		
		わけぎ (その他のゆり科野菜) (茎葉)	2	20%水溶剤+2% 粒剤	4000倍散布300又は278L/10a 6kg/10a散布	4回	7日	圃場A (4回, 7日) HPLC	0.40	/	(使用方法の違い)
							7日	圃場B (4回, 7日)	< 0.05		
29	その他のゆり科野菜	食用ゆり (鱗茎)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150, 200L/10a	4回	1日	圃場A (4回, 1日) HPLC	< 0.05	} ○	0.05
		食用ゆり (鱗茎)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150, 200L/10a	4回	1日	圃場B (4回, 1日)	< 0.05		
		らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	3	20%水溶剤	2000倍散布 150・200L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC	< 0.01	/	
							14日	圃場B (3回, 14日) HPLC	0.03		
14日	圃場A (3回, 14日) GC	< 0.02									
30	パセリ	パセリ (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 200L/10a	1回	3日	圃場A (1回, 3日) GC	1.10	○	0.75
							3日	圃場B (1回, 3日)	0.39		
31	セロリ	セロリ (茎葉)	2	2%粒剤	0.5g/株 定植時植穴土壌混和	1回	71日	圃場A (1回, 71日) HPLC	< 0.05	/	
							100日	圃場B (1回, 100日)	< 0.05		
		セロリ (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 250, 235L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC	0.85	○	0.58
							7日	圃場B (2回, 7日)	0.30		
32	みつば	みつば (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 150, 200L/10a	1回	7日	圃場A (1回, 7日) GC	0.97	○	1.40
							7日	圃場B (1回, 7日)	1.82		

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)			
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数						
33	トマト	ミニトマト (果実)	2	15%燻煙剤+2%粒剤	1g/株 (定植時植穴土壌混和・1回) + 燻煙処理 (50g/400m ³)	1+3回	1日	圃場A (4回, 1日) HPLC 0.16 圃場B (4回, 1日) < 0.05	/	(剤型違い)			
		ミニトマト (果実)	2	20%水溶剤+2%粒剤	2000倍散布300L/10a 1g/株 定植時植穴土壌混和	1+3回 (#)	1日	圃場A (4回, 1日) (#) HPLC 0.50 圃場B (4回, 1日) (#) 0.73	○	0.62 (適用外使用)			
		ミニトマト (果実)	2	2%粒剤+1%粒剤	1g/株定植時植穴土壌混和+2g/株生育期株元散布	1+3回	1日	圃場A (4回, 1日) HPLC < 0.05 圃場B (4回, 1日) < 0.05	/	(剤型違い)			
		トマト (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 300L/10a	2回	1日	圃場A (2回, 7日) 統一 0.42 圃場B (2回, 1日) 0.23	/	/			
		トマト (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 300L/10a	2回	1日	圃場A (2回, 1日) 統一 0.21 圃場B (2回, 7日) 0.46	/				
		トマト (果実)	2	2%粒剤+20%水溶剤	2g/株 (1回) 2000倍散布 200L/10a (2回)	1+2回	1日	圃場A (2回, 1日) 統一 0.20 圃場B (2回, 3日) 0.20	/				
		トマト (果実)	2	15%くん煙剤	50g/400m ³ 燻煙	2回	1日	圃場A (2回, 1日) 統一 0.02 圃場B (2回, 1日 → 3日) 0.04	/				
		トマト (果実)	2	2%粒剤	2g/株(定植時植穴土壌混和、1回) + 1g/株 (株元散布、2回)	3回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC < 0.05 圃場B (3回, 1日) GC < 0.05	/				
		34	ピーマン	ピーマン (果実)	2	2%粒剤	1g/株植穴土壌混和 (#)	1回	93日		圃場A (1回, 93日) (#) 統一 0.04 圃場B (1回, 44日) (#) 0.15	/	(適用外使用)
				ピーマン (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 (#) 250~300L/10a (3回) (#)	3回 (#)	1日		圃場A (3回, 1日) (#) 統一 2.33 圃場B (3回, 1日) (#) 1.45	/	(適用外使用により、 評価対象より除外)
ピーマン (果実)	1			15%くん煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回 (#)	1日	圃場A (3回, 1日) (#) 統一 0.24	/		(適用外使用)		
ピーマン (果実)	1			15%くん煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回 (#)	1日	圃場A (3回, 3日) (#) 統一 0.20	/		(適用外使用)		
ピーマン (果実)	2			2%粒剤	1g/株植穴土壌混和 (#)	1回	84日	圃場A (1回, 84日) (#) 統一 0.03 圃場B (1回, 78日) (#) 0.01	/		(適用外使用)		
ピーマン (果実)	2			20%水溶剤	4000倍散布 200~400L/10a (3回)	2回	1日	圃場A (2回, 3日) 統一 0.18 圃場B (2回, 1日) 0.40	/	(剤型違い)			
ピーマン (果実)	2			2%粒剤+1%粒剤	0.5g/株定植時植穴土壌混和 +2g/株生育期株元散布	1回+2回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC < 0.05 圃場B (3回, 1日) < 0.05	/	(使用方法の違い)			
ピーマン (果実)	2			2%粒剤+15%くん煙剤	0.5g/株定植時植穴土壌混和+ 50g/400m ³ 燻煙処理	1回+2回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC 0.24 圃場B (3回, 1日) 0.14	/	(使用方法の違い)			
ピーマン (果実)	2			2%粒剤+20%水溶剤	0.5g/株定植時植穴土壌混和+ 4000倍希釈液150L又は 220.4L/10a散布	1回+2回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC 0.32 圃場B (3回, 1日) 0.43	○	0.38			

No	分類	農作物	試験圃 面積	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値 の選定	暴露評価の代表値 (平均値)	
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
35	ナス	なす (果実)	2	2%粒剤	1g/株 (定植時植穴土壌混和)	1回	63日	圃場A (1回, 63日) 統一	0.04	/	(剤型違い)
							60日	圃場B (1回, 60日)	0.02		
		なす (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1日) GC 親	0.150	○ (#)	(分析法の違い)
							1日	圃場B (3回, 1~3日) GC 親	0.584		
		なす (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1日) 統一	0.51	} (#)	0.42
							1日	圃場B (3回, 1~7日) 統一	0.33		
		なす (果実)	2	2%粒剤+20%水 溶剤	1g/株定植時植穴土壌混和+ 2000倍希釈液150L (#)又は 400L/10a散布	1+3回	1日	圃場A (4回, 1日) (#) HPLC	0.50	/	(適用外使用)
							1日	圃場B (4回, 1日) (#)	0.27		
なす (果実)	2	2%粒剤+15%く ん煙剤	1g/株定植時植穴土壌混和+ 50g/400m ³ 燻煙処理	1+3回	1日	圃場A (4回, 1日) HPLC	0.14	/	(剤型違い)		
					1日	圃場B (4回, 1日)	0.12				
なす (果実)	2	2%粒剤+1%粒剤	1g/株定植時植穴土壌混和+2g/ 株生育期株元散布	1+3回	1日	圃場A (4回, 1日) HPLC	< 0.05	/	(剤型違い)		
					1日	圃場B (4回, 1日)	< 0.05				
なす (果実)	2	15%くん煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回	1日	圃場A (3回, 1日 → 7日) 統一	0.07	/	(剤型違い)		
					1日	圃場B (3回, 1日 → 3日)	0.23				
36	その他のなす科野菜	とうがらし類 (その他のなす科野菜) (果実)	2	20%水溶剤	8000倍散布 200, 267, 56L/10a	2回	7日	圃場A (3回, 7日) HPLC	0.16	/	/
							7日	圃場B (3回, 7日)	0.07		
		ししとう (その他のなす科野菜) (果実)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日 → 8日) HPLC	0.36		
						7日	圃場B (2回, 7日)	0.28			
		食用ほおずき (その他のなす科野菜) (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布200L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC	< 0.05	/	/
						14日	圃場B (3回, 14日)	< 0.05			
37	きゅうり (含 ガーキン)	きゅうり (果実)	2	2%粒剤	1g/株 (株元処理)	1回	48日	圃場A (1回, 48日) 統一	0.09	/	(剤型違い)
							46日	圃場B (1回, 46日)	0.02		
		きゅうり (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 171~300L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1日) 統一	0.42	/	(剤型違い)
							1日	圃場B (3回, 1日 → 3日)	0.26		
		きゅうり (果実)	2	15%くん煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回	1日	圃場A (3回, 1日 → 3日) 統一	0.32	○	0.42 ★
							1日	圃場B (3回, 1日)	0.52		
		きゅうり (果実)	2	2%粒剤+1%粒剤	1g/株定植時株元散布+0.5g/株 収穫30日前株元散布+2g/株株 元散布	1+1+3回	1日	圃場A (5回, 1日) HPLC	0.10	/	(使用方法の違い)
					1日	圃場B (5回, 1日)	< 0.05				
きゅうり (果実)	2	2%粒剤+15%く ん煙剤	1g/株 (定植時株元散布・1 回) 0.5g/株 (生育期株元散 布) +燻煙処理 (50g/400m ³)	2+3回	1日	圃場A (5回, 1日) HPLC	0.20	/	(剤型違い)		
					1日	圃場B (5回, 1日)	0.06				
きゅうり (果実)	2	2%粒剤+20%水 溶剤	1g/株 (定植時株元散布・1 回) 0.5g/株 (生育期株元散 布) +2000倍希釈液散布 (150 ~200L/10a, 3回)	2+3回	1日	圃場A (5回, 1日) HPLC	0.29	/	(使用方法の違い)		
					1日	圃場B (5回, 1日)	0.29				

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)			
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数						
38	かぼちゃ (含 スカッシュ)	かぼちゃ (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 300L/10a	2回	1日	圃場A (2回, 1日) HPLC	< 0.05	○	0.13		
							1日	圃場B (2回, 1日)	0.21				
		かぼちゃ (果実)	2	2%粒剤+20%水溶剤	1g/株 定植時種穴土壌混和 +2000倍散布300又は200L/10a	1+2回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC	0.06			/	(剤型違い)
							1日	圃場B (3回, 1日)	0.08				
		ズッキーニ (果実)	2	15%燻煙成型剤	燻煙、50g/400m ³	2回	1日	圃場A (2回, 1日) LC-MS/MS	< 0.01			/	/
							1日	圃場B (2回, 1日)	< 0.01				
40	スイカ (果実)	すいか (果実)	2	15%燻煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回	7日	圃場A (3回, 7日) 統一	0.06	○	0.08		
							3日	圃場B (3回, 3日)	0.09				
		すいか (果実)	2	2%粒剤+20%水溶剤	2g/株定植時種穴土壌混和(＃) +2000倍希釈液200L/10a散布	1+3回	3日	圃場A (4回, 3日→7日) (＃) 統一	0.06			/	(適用外使用)
							3日	圃場B (4回, 3日→14日) (＃)	0.07				
41	メロン類 (果実)	メロン (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布(＃) 300, 200L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) (＃) 統一	0.14	/	(適用外使用)		
							14日	圃場B (3回, 14日) (＃)	0.03				
		メロン (果実)	2	2%粒剤+20%水溶剤	0.5g/株定植時種穴土壌混和+ 8000倍希釈液150~250L/10a散布	1+3回(＃)	3日	圃場A (4回, 3日) (＃) GC	< 0.05			/	(適用外使用)
							7日	圃場B (4回, 7日) (＃)	< 0.05				
		メロン (果実)	2	15%燻煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回	7日	圃場A (3回, 7日) 統一	0.16			○	0.15
							7日	圃場B (3回, 7日)	0.14				
42	その他のうり科野菜	にがうり (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 200L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC	0.16	○	0.18		
							1日	圃場B (3回, 1日)	0.20				
43	ほうれん草	ほうれん草 (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 150~200L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) HPLC	0.42	○※	0.58		
							14日	圃場B (2回, 14日)	0.06				
		ほうれん草 (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 200L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) HPLC	1.52				
							14日	圃場B (2回, 14日) GC	0.32				
44	おくら	オクラ (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150L/10a(3回)	1~3回	1日	圃場A (2回, 1日) GC	0.18	○	0.30		
							1日	圃場B (2回, 1日)	0.41				
45	未成熟えんどう	さやえんどう (さや)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC	0.84	○	0.55		
							1日	圃場B (3回, 1日)	0.26				
46	未成熟インゲン	さやいんげん (さや)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150L/10a(3回)	3回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC	0.52	○	0.68		
							1日	圃場B (3回, 1日)	0.26				
		さやいんげん (さや)	2	20%水溶剤	2000倍散布 150~400L/10a(3回)	3回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC	0.50				
							1日	圃場B (3回, 1日)	1.45				
47	えだまめ	えだまめ (さや (未成熟だいず))	2	20%水溶剤	2000倍散布(＃) 150L/10a(3回)	3回	7日	圃場A (3回, 7日) (＃) HPLC	0.31	△	(適用外使用)		
							7日	圃場B (3回, 7日) (＃) GC	1.48				
		えだまめ (さや)	2	2%粒剤+20%水溶剤	(3kg/10a)土壌混和+2000倍散布 150L/10a(＃)	1+3回	7日	圃場A (4回, 7日) (＃) HPLC	1.42			○	1.13 (適用外使用)
							7日	圃場B (4回, 7日) (＃) GC	0.83				

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)	
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
48	その他の野菜	エンサイ (その他の野菜) (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 200L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) GC(NPD) 圃場B (2回, 7日)	0.42 2.03	/	/
		ふだんそう (その他の野菜) (葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150, 200L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC 圃場B (2回, 7日)	1.62 1.94	/	/
		つるな (その他の野菜) (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) HPLC 圃場B (3回, 14日)	1.8 2.8	○	2.30
		モロヘイヤ (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布→2000倍 200L/10a (#)	2回	21日	圃場A (1回, 21日) (#) HPLC 圃場B (1回, 21日) (#)	1.01 0.52	/	(適用外使用)
		やまのいものむかご むかご (珠芽)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	3回	21日	圃場A (3回, 21日) HPLC 圃場B (3回, 21日)	0.15 0.08	/	/
		食用さくら (葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	1回	3日	圃場A (1回, 3日) HPLC 圃場B (1回, 3日)	1.22 0.33	/	/
49	みかん	温州みかん (果肉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) 統一 圃場B (3回, 14日)	0.17 0.02	○	0.10
		温州みかん (果肉)	2	20%水溶剤	200倍樹幹散布 30 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC 圃場B (3回, 14日)	< 0.05 < 0.05	/	(使用方法の違い)
		温州みかん (果肉)	2	15%燻煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回	3日	圃場A (3回, 3日) 統一 圃場B (3回, 3日)	0.08 0.05	/	(剤型違い)
	みかんの皮 (→ その他のスパイス)	温州みかん (果皮)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) 統一 圃場B (3回, 14日 → 21日)	2.76 1.22	△	2.0 (さんしょう 2.2)
		温州みかん (果皮)	2	20%水溶剤	200倍樹幹散布 30 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC 圃場B (3回, 14日)	< 0.05 < 0.05	/	(使用方法の違い)
		温州みかん (果皮)	2	15%燻煙剤	50g/400m ³ 燻煙	3回	3日	圃場A (3回, 3日) 統一 圃場B (3回, 3日)	1.54 0.74	/	(剤型違い)
50	なつみかん	夏みかん (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) 統一 圃場B (3回, 14日)	0.54 0.90	○	0.72
		夏みかん (果実)	2	20%水溶剤	200倍樹幹散布 30 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC 圃場B (3回, 14日)	< 0.05 < 0.05	/	(使用方法の違い)
51	その他のかんきつ類果実	かぼす (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) 統一 圃場B (3回, 14日)	0.88 0.53	○	0.71
		かぼす (果実)	1	20%水溶剤	200倍樹幹散布 30 L/10a	3回	16日	圃場A (3回, 16日) GC	< 0.05	/	(使用方法の違い)
		すだち (果実)	1	20%水溶剤	200倍樹幹散布 30 L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) GC	< 0.05	/	/

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)	
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
52	りんご	りんご (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) 統一	0.19	/	(使用時期の違い)
							14日	圃場B (2回, 14日)	0.44		
		りんご (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 500 L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC	0.5		
							14日	圃場B (2回, 14日)	< 0.2		
		りんご (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 500, 600 L/10a	2回	1日	圃場A (2回, 1日) HPLC	0.41		
							1日	圃場B (2回, 1日)	0.50		
		りんご (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 500 L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1日 → 7日) HPLC	0.39		
							1日	圃場B (3回, 1日)	0.80		
53	日本なし	日本なし (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 350, 700 L/10a	2回	3日	圃場A (2回, 3日) HPLC	0.18	/	(使用時期の違い)
							3日	圃場B (2回, 3日)	0.28		
		なし (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400, 600 L/10a	2回	1日	圃場A (2回, 1日) HPLC	0.28		
							1日	圃場B (2回, 1日)	0.74		
		なし (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) 統一	0.34		
							21日	圃場B (2回, 21日)	0.12		
54	びわ	びわ (果肉)	1	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1~7日) GC	< 0.01	/	0.02
							1日	圃場B (3回, 1日) GC	0.02		
55	もも	もも (果肉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) 統一	0.42	/	(使用時期の違い)
							7日	圃場B (3回, 7日)	0.23		
		もも (果肉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400・500 L/10a	3回	3日	圃場A (3回, 3日) HPLC	0.69		
							3日	圃場B (3回, 3日)	0.36		0.53
56	ネクタリン	ネクタリン (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 600, 700L/10a	3回	3日	圃場A (3回, 3日) HPLC	0.28	/	0.35
							3日	圃場B (3回, 3日)	0.42		
57	スモモ (含 プルーン)	すもも (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) 統一	0.12	/	0.68
							7日	圃場B (2回, 7日)	1.23		
58	ウメ	うめ (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400 L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) 統一	1.10	/	0.86
							7日	圃場B (2回, 7日→21日)	0.62		
59	おうとう (チェリー)	おうとう (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 500・700L/10a	1回	3日	圃場A (1回, 3日) HPLC	0.92	/	0.80
							3日	圃場B (1回, 3日)	0.68		

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)			
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数						
60	イチゴ	いちご (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150 L/10a	2回	3日	圃場A (2回, 3日) 統一	0.18	/	(剤型違い)		
							1日	圃場B (2回, 1日)	0.44				
		いちご (果実)	2	2%粒剤+20%水溶剤	(1g/株)植穴混和処理+2000倍散布 200L/10a(2回)	1+2回	1日	圃場A (1+2回, 1日) GC	0.86	/	(使用法の違い) 2000倍は 2圃場 4000倍は 1圃場		
								圃場B (1+2回, 1日)	0.78				
		いちご (果実)	1	2%粒剤+20%水溶剤	(1g/株)植穴混和処理+4000倍散布, 200L/10a(2回)	1+2回	1日	圃場A (1+2回, 1日) GC	0.70				
圃場B (1+2回, 1日)	0.70												
いちご (果実)	2	2%粒剤+20%水溶剤	(1g/株)株元散布+2000倍散布 200L/10a(2回)	1+2回	1日	圃場A (1+2回, 1日) HPLC	0.46	○	0.92				
圃場B (1+2回, 1日) GC	1.38												
いちご (果実)	2	15%くん煙剤	50g/360~400m ³ 燻煙	2回	1日	圃場A (2回, 1日) 統一	0.41	/	(剤型違い)				
						圃場B (2回, 1日)	0.41						
61	ブルーベリー	ブルーベリー (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	1回	1日	圃場A (1回, 1日) HPLC	< 0.5	○	0.75		
							1日	圃場B (1回, 1日) GC	1.0				
62	ブドウ	ぶどう・デラウェア (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 250 L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) 統一	2.88	/	} 2.29 (適用外使用)		
							14日	圃場B (2回, 14日)	2.51				
		ぶどう・デラウェア (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 200・250 L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) 統一	1.47				
								圃場B (2回, 14日→11日) (#)	2.36				
		ぶどう・巨峰 (果実)	1	20%水溶剤	2000倍散布 250 L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) 統一	0.24			/	(品種の違い)
		ぶどう (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 300 L/10a	3回 (#)	14日	圃場A (3回, 14日) (#) HPLC	0.98			/	(適用外使用)
圃場B (3回, 14日) (#)	1.14												
ぶどう・デラウェア (果実)	1	2%粒剤	6kg/10a樹冠下散布	2回	14日	圃場A (2回, 14日) GC	< 0.05	/	(剤型違い)				
ぶどう・巨峰 (果実)	1	2%粒剤	6kg/10a樹冠下散布	2回	14日	圃場A (2回, 14日) GC	< 0.05						
63	かき	かき (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400, 420 L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) 統一	0.40	○	0.30		
							7日	圃場B (3回, 7日)	0.20				
64	キウイ	キウイフルーツ (果肉)	2	20%水溶剤	2000倍散布 260・500L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) HPLC	< 0.05	} ○	0.05		
							7日	圃場B (3回, 7日)	< 0.05				
65	マンゴー	マンゴー (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 300・700L/10a	3回	35日	圃場A (3回, 35日) LC-MS/MS	0.44	} ○	0.44 (適用外使用)		
							21日 (#)	圃場B (3回, 21日) (#) GC	0.44				
66	パッションフルーツ	パッションフルーツ (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 312.5, 267L/10a	2回	28日 (#)	圃場A (2回, 28日) (#) HPLC	0.04	○	0.17 (適用外使用)		
							28日 (#)	圃場B (2回, 28日) (#)	0.30				

No	分類	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値の選定	暴露評価の代表値 (平均値)			
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数						
67	その他の果実	いちじく (その他の果実) (果実)	2	20%水溶剤	2000倍散布 400L/10a	3回	1日	圃場A (3回, 1日) HPLC	0.44	○	0.46		
							1日	圃場B (3回, 7日) GC	0.47				
		アセロラ (その他の果実) (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 566, 220L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC	0.22				
							7日	圃場B (2回, 7日)	0.40				
		カリン (その他の果実) (果実)	2	20%水溶剤	1000倍散布40L/2樹(#) 2000倍散布・400L/10a	2回	14日	圃場A (2回, 14日) (#) HPLC	0.34			/	(適用外使用)
							14日	圃場B (2回, 14日) (#)	0.24				
		あけび (その他の果実) (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 500L/10a	2回	7日	圃場A (2回, 7日) HPLC	0.17			/	
							7日	圃場B (2回, 7日)	< 0.05				
68	茶	茶 (荒茶)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	1回	13日	圃場A (1回, 13日) (#) 統一	9.88	/	(使用方法の違い)		
							14日	圃場B (1回, 14日)	12.0				
		茶 (荒茶)	2	20%水溶剤	2000倍散布 300L/10a	1回	13日	圃場A (1回, 13日) (#) 統一	19.8	○	20.6		
							14日	圃場B (1回, 14日)	21.4				
		茶 (製茶)	2	18%液剤	2000倍散布 (#) 200L/10a	1回	14日	圃場A (1回, 14日) (#) HPLC	5.47	/	(適用外使用)		
							14日	圃場B (1回, 14日) (#)	5.40				
69	その他のスパイス	さんしょう (その他のスパイス) (果実)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	1回	7日	圃場A (1回, 7日) HPLC	2.0	○	2.15 (みかんの皮 2.0)		
							7日	圃場B (1回, 7日→21日)	2.3				
		さんしょう (果実)	2	20%水溶剤	200倍散布 20L/10a (樹幹散布)	3回	7日	圃場A (1回, 7日) LC/MS	< 0.2	/	(使用方法の違い)		
							7日	圃場B (1回, 7日)	< 0.2				
		さんしょう (葉部)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150L/10a	6回	45日	圃場A (6回, 45日) HPLC	< 0.4	/			
							45日	圃場B (6回, 45日)	1.2				
		しそ (葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 200L/10a	2、3回	14日	圃場A (3回, 14日) (#) HPLC	0.50	/	(適用外使用)		
							14日	圃場B (2回, 14日)	0.65				
		セージ (その他のハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	3回	21日	圃場A (3回, 21日) HPLC	1.9	/			
							21日	圃場B (3回, 21日)	< 0.5				
		セージ (その他のハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	21日	圃場A (3回, 21日) HPLC	0.9	/			
							21日	圃場B (3回, 21日)	< 0.5				
		タイム (その他のハーブ) (茎葉及び花)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	21日	圃場A (3回, 21日) HPLC	0.6	/			
							21日	圃場B (3回, 21日)	2.4				
オレガノ (その他のハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	7日	圃場A (3回, 7日) HPLC	1.4	/					
					7日	圃場B (3回, 7日)	2.1						
あざつき (その他のハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤+2% 粒剤	6kg/10a植溝土壌混和 2000倍希釈液散布150~ 200L/10a	1+3回	7日	圃場A (4回, 7日) HPLC	0.42	/					
					7日	圃場B (4回, 7日)	0.56						
レモンバーム (その他のハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 300L/10a	3回	14日	圃場A (3回, 14日) HPLC	2.4	/					
					14日	圃場B (3回, 14日)	0.5						

No	分類	農作物	試験 圃場 数	試験条件				最大残留量 (ppm)	基準値 の選定	暴露評価の代表値 (平均値)	
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
70	その他のハーブ	はっか(スベアミント) (その他ハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	7日	圃場A(3回,7日) HPLC 圃場B(3回,7日)	2.4 2.3	○	2.35
		はっか(スベアミント) (その他ハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布(#) 300L/10a	3回	7日	圃場A(3回,7日) (#) HPLC 圃場B(3回,7日) (#)	3.3 4.0		(適用外使用)
		タラゴン (その他ハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	4000倍散布 150L/10a	2回	14日	圃場A(2回,14日) HPLC 圃場B(2回,14日)	1.3 2.06		
		チャービル (その他ハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	21日	圃場A(3回,21日) HPLC 圃場B(3回,21日)	1.0 1.6		
		デイル (その他ハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	21日	圃場A(3回,21日) HPLC 圃場B(3回,21日)	< 0.5 0.46		
		バジル (その他ハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	21日	圃場A(3回,21日) HPLC 圃場B(3回,21日)	1.9 1.5		
		みょうが (その他ハーブ) (花穂)	2	15%燻煙成型剤	くん煙処理 (50g/400m ³)	3回	1日	圃場A(3回,1日) HPLC 圃場B(3回,1日 → 3日)	< 0.04 0.03		
		マジヨラム (その他ハーブ) (茎葉)	2	20%水溶剤	8000倍散布 300L/10a	3回	14日	圃場A(3回,14日) HPLC 圃場B(3回,14日)	0.5 2.8		

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。
△印は同作物群の試験中で最大の残留値であるが、暴露量評価には、平均値として残留量の高い試験成績を用いている。(基準設定の代表値の○印と同様の基準値(案)となる。)
最大残留量欄の「統一」、「GC」、「HPLC」等は分析の種類、「親」は親化合物 アセタミプリドのみの分析値を示す。
★ しろうり及びその他のうり科野菜については、きゅうりの残留量(0.42ppm)の2倍をもって、緊急登録されてきた経緯があるものとされる。
今回、当該農作物の基準設定のための試験成績は提出されていないが、農林水産省から、理由書の提出をもって、同基準値の維持が要請されている。
※印の試験については、短期暴露量推計の試算も勘案し、使用方法の見直し(使用時期 散布3日後 → 14日後)を行った場合の残留値を示している。
なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「アセタミプリド」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験圃場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

アセタミプリド海外作物残留試験一覧表 (① 米国における作物残留試験結果)

No	分類	農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)			平均値	
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	圃場A	圃場B	圃場C		
1	小豆類	ライマ豆 (Lima bean) 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	6	70%水和剤	0.101 lb ai/A 11.32g ai/10a 散布	3回	7日	圃場A:	0.0838	(3回、7日)	}	0.08
							7日	圃場B:	0.0342	(3回、7日)		
							7日	圃場C:	0.109	(3回、7日)		
							7日	圃場D:	0.0402	(3回、7日)		
							7日	圃場E:	0.178	(3回、7日)		
							7日	圃場F:	0.0195	(3回、7日)		
2	えんどう	えんどう (Green peas) 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	6	70%水和剤	0.101 lb ai/A 11.32g ai/10a 散布	3回	7日	圃場A:	0.0116	(3回、7日)	}	0.02
							7日	圃場B:	0.0299	(3回、7日)		
							7日	圃場C:	0.0304	(3回、7日)		
							7日	圃場D:	0.0158	(3回、7日)		
							8日	圃場E:	0.00447	(3回、8日)		
							7日	圃場F:	0.0236	(3回、7日)		
3	そらまめ	そらまめ (Green bean) 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	6	70%水和剤	0.101 lb ai/A 11.32g ai/10a 散布	3回	7日	圃場A:	0.178	(3回、7日)	}	0.04
							7日	圃場B:	< 0.01	(3回、7日)		
							7日	圃場C:	0.00410	(3回、7日)		
							7日	圃場D:	0.00679	(3回、7日)		
							7日	圃場E:	< 0.01	(3回、7日)		
							7日	圃場F:	0.0201	(3回、7日)		
4-1	レタス	レタス (外側葉込) 1997年 アメリカ合衆国 ECD-GC法	6	70%水和剤	0.075 lb ai/A 8.41 g ai/10a 散布	5回	7日	圃場A:	0.650	(5回、7日)	}	/
							7日	圃場B:	0.140	(5回、7日)		
							7日	圃場C:	0.376	(5回、7日)		
							7日	圃場D:	0.277	(5回、7日)		
							7日	圃場E:	0.423	(5回、7日)		
							7日	圃場F:	0.676	(5回、7日)		
4-2	レタス	レタス (外側葉を除く) 1997年 (アメリカ合衆国) ECD-GC法	2	70%水和剤	0.075 lb ai/A 8.41 g ai/10a	5回	7日	圃場A:	0.061	(5回、7日)	}	0.08
							7日	圃場B:	0.257	(5回、7日)		
							7日	圃場A:	0.018	(5回、7日)		
							7日	圃場B:	0.052	(5回、7日)		
							7日	圃場C:	< 0.01	(5回、7日)		
							7日	圃場D:	0.060	(5回、7日)		
4-2	レタス	レタス (外側葉を除く) 1997年 (アメリカ合衆国) ECD-GC法	2	70%水和剤	0.075 lb ai/A 8.41 g ai/10a	5回	7日	圃場A:	0.014	(5回、7日)	}	0.48
							7日	圃場B:	0.010	(5回、7日)		
							7日	圃場A:	0.606	(5回、7日)		
							7日	圃場B:	0.298	(5回、7日)		
							7日	圃場C:	0.412	(5回、7日)		
							7日	圃場D:	0.959	(5回、7日)		
5	たまねぎ	サラダ菜 1997年 (アメリカ合衆国) ECD-GC法	6	70%水和剤	0.075 lb ai/A 8.41 g ai/10a 散布	5回	7日	圃場E:	0.868	(5回、7日)	}	0.01
							7日	圃場F:	0.116	(5回、7日)		
							7日	圃場A:	0.106	(5回、7日)		
							7日	圃場B:	0.457	(5回、7日)		
							7日	圃場A:	< 0.006	(5回、7日)		
							7日	圃場B:	< 0.006	(5回、7日)		
7	ほうれんそう	たまねぎ (Buld Onion) 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	6	70%水和剤	0.148 lb ai/A 12.69 g ai/10a 散布	4回	7日	圃場C:	< 0.006	(5回、7日)	}	0.87
							7日	圃場D:	0.012	(5回、7日)		
							7日	圃場E:	< 0.006	(5回、7日)		
							7日	圃場F:	< 0.006	(5回、7日)		
							7日	圃場A:	0.036	(5回、7日)		
							7日	圃場B:	0.211	(5回、7日)		
8	未成熟えんどう	ほうれん草 1997年 (アメリカ合衆国) ECD-GC法	5	70%水和剤	0.075 lb ai/A 8.41 g ai/10a 散布	5回	7日	圃場C:	2.49	(5回、7日)	}	0.16
							7日	圃場D:	0.552	(5回、7日)		
							7日	圃場E:	2.08	(5回、7日)		
							7日	圃場A:	0.031	(5回、7日)		
							7日	圃場B:	1.13	(5回、7日)		
							7日	圃場C:	0.464	(5回、7日)		
8	未成熟えんどう	さやえんどう (Peas in pod) 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	3	70%水和剤	0.101 lb ai/A 11.32g ai/10a 散布	3回	7日	圃場A:	0.132	(3回、7日)	}	0.16
							8日	圃場B:	0.272	(3回、8日)		
							7日	圃場C:	0.0814	(3回、7日)		

No	分類	農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)			平均値
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
9	りんご	りんご 1997年 (アメリカ合衆国) ECD-GC法	7	70%水和剤	0.15 lb ai/A 16.82 g ai/10a 散布	4回	7日 7日 7日 7日 7日 7日	圃場A: 0.16 (4回、7日) 圃場B: 0.59 (4回、7日) 圃場C: 0.27 (4回、7日) 圃場D-1: 0.14 (4回、7日) 圃場D-2: 0.12 (4回、7日) 圃場E-1: 0.28 (4回、7日) 圃場E-2: 0.18 (4回、7日)	0.25		
		りんご 1998年 (アメリカ合衆国) ECD-GC法	10	70%水和剤	0.15 lb ai/A 16.82 g ai/10a 散布	4回	7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日	圃場A-1: 0.22 (4回、7日) 圃場A-2: 0.14 (4回、7日) 圃場B: 0.24 (4回、7日) 圃場C-1: 0.12 (4回、7日) 圃場C-2: 0.26 (4回、7日) 圃場D: 0.30 (4回、7日) 圃場E: 0.18 (4回、7日) 圃場F-1: 0.54 (4回、7日) 圃場F-2: 0.25 (4回、7日) 圃場G: 0.23 (4回、7日)			
10	西洋なし	なし 1997年 (アメリカ合衆国) EDC-GC	7	70%水和剤	0.15 lb ai/A 16.82 g ai/10a 散布	4回	7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日	圃場A: 0.31 (4回、7日) 圃場B: 0.15 (4回、7日) 圃場C: 0.25 (4回、7日) 圃場D-1: 0.09 (4回、7日) 圃場D-2: 0.32 (4回、7日) 圃場E-1: 0.32 (4回、10日) 圃場E-2: 0.09 (4回、7日) 圃場A: 0.16 (4回、7日)	0.21		
		なし 1998年 (アメリカ合衆国) EDC-GC	2	70%水和剤	0.15 lb ai/A 16.82 g ai/10a 散布	4回	7日	圃場B: 0.20 (4回、7日)			
11	いちご	いちご 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	10	70%水和剤	0.26 lb ai/A 29.15 g ai/10a 散布	2回	1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日	圃場A-1: 0.24 (2回、1日) 圃場A-2: 0.23 (2回、1日) 圃場B: 0.11 (2回、1日) 圃場C: 0.24 (2回、1日) 圃場D: 0.06 (2回、1日) 圃場E: 0.09 (2回、1日) 圃場F: 0.04 (2回、1日) 圃場G: 0.12 (2回、1日)	0.12		
							5回 (#)	圃場H: 0.05 (5回 (#)、1日)			
							2回	圃場A: 0.03 (2回、1日)			
12	ラズベリー	ラズベリー 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	1	30%粒剤	0.1 lb ai/A 11.21 g ai/10a 散布	5回	1日	圃場A: 1.054 (5回、1日)	0.92		
		ラズベリー 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	1	70%水和剤	0.2 lb ai/A (#) 0.1 lb ai/A 22.42 g ai/10a 11.21g ai/10a 散布	3回	1日	圃場A: 0.779 (#) (3回、1日)			
13	ブラックベリー	ブラックベリー 2003年	2	70%水和剤	0.1 lb ai/A 11.21 g ai/10a 散布	5回	1日 1日	圃場A: 0.531 (5回、1日) 圃場B: 0.564 (5回、1日)	0.45		
		ブラックベリー 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS	3	70%水和剤	0.1 lb ai/A 11.21 g ai/10a 散布	5回	1日 8日 7日	圃場A: 0.545 (5回、1日) 圃場B: 0.302 (5回、8日) 圃場C: 0.302 (5回、7日)			
			1	70%水和剤	0.4 lb ai/A (除) 0.1 lb ai/A 45.28g ai/10a 11.21g ai/10a 散布	2回 (除)	2日 (#)	圃場A: 2.484 (2回 (除)、2日 (#))			
14	ブルーベリー	ブルーベリー 2004年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	6	70%水和剤	0.1 lb ai/A 11.21 g ai/10a 散布	5回	1日 1日 1日 1日 1日 1日	圃場A: 0.0867 (5回、1日) 圃場B: 0.475 (5回、1日) 圃場C: 0.616 (5回、1日) 圃場D: 0.493 (5回、1日) 圃場E: 0.200 (5回、1日) 圃場F: 0.247 (5回、1日)	0.35		

No	分類	農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)			平均値	
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数					
15	綿実	綿実 1997年 アメリカ合衆国	12	70%水和剤	0.1 lb ai/A 11.21 g ai/10a 散布	4回	28日	圃場A:	0.023	(4回、28日)	0.11	
							28日	圃場B:	< 0.01	(4回、28日)		
							28日	圃場C:	0.10	(4回、28日)		
		28日	圃場D:	< 0.01	(4回、28日)							
		28日	圃場E:	0.056	(4回、28日)							
		28日	圃場F:	0.12	(4回、28日)							
28日	圃場A:	0.10	(4回、28日)	0.048								
28日	圃場B:	0.02	(4回、28日)									
28日	圃場C:	0.50	(4回、28日)									
16	ペカン	ペカン (分析部位:Nut) 2003年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	6	70%水和剤	0.179 lb ai/A 20.07 g ai/10a 散布	4回	14日	圃場A:	< 0.01	(4回、14日)	0.02	
							14日	圃場B:	< 0.01	(4回、14日)		
							14日	圃場C:	< 0.01	(4回、14日)		
							14日	圃場D:	0.047	(4回、14日)		
							14日	圃場E:	0.009	(4回、14日)		
							14日	圃場F:	< 0.01	(4回、14日)		
17	アーモンド	アーモンド (NutおよびHull) 2003年 (アメリカ合衆国) LC/MS/MS法	5	70%水和剤	0.179 lb ai/A 20.07 g ai/10a 散布	4回	14日	Nut*1:	圃場A:	0.022	(4回、14日)	0.01
							14日	圃場B:	0.012	(4回、14日)		
							14日	圃場C:	< 0.01	(4回、14日)		
							14日	圃場D:	0.010	(4回、14日)		
							14日	圃場E:	< 0.01	(4回、14日)		
		14日	Hull*2:	圃場A:	1.90	(4回、14日)	/					
		14日	(参考)	圃場B:	3.83	(4回、14日)						
		14日	圃場C:	0.222	(4回、14日)							
		14日	圃場D:	1.99	(4回、14日)							
		14日	圃場E:	0.779	(4回、14日)							
18	その他のハーブ	エシャロット (Green Onion) 1998年	3	70%水和剤	0.075 lb ai/A 8.41 g ai/10a 散布	5回	7日	圃場A:	0.050	(5回、7日)	0.80	
							7日	圃場B:	1.960	(5回、7日)		
							7日	圃場C:	0.384	(5回、7日)		

アセタミプリド海外作物残留試験一覧表 (② 韓国における作物残留試験結果)

No	分類	農作物	試験圃場	試験条件				残留量 (ppm)			最大値
				剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数				
6	その他のなす科野菜	とうがらし (Unripe red peppers) 2005年	1	4%水和剤	250 L/10 a a. i. 0.010 kg/10 a 散布	2回	1日 (#)	圃場A:	1.03	(#)	1.14
							(1圃場)	1.14	(#)		
								1.02	(#)		

(#) これらの作物残留試験は、作物残留試験が実施された国の使用方法の範囲内で試験が行われていない。
(除) 登録内容・使用基準との対応が確認できないことから、評価対象から除外。

*1: Nut ナッツ *2: Hull 外皮

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
					外国 基準値 ppm		
大麦 ライ麦 とうもろこし そば その他の穀類	0.2	0.2	○				<0.05, <0.05
小豆類 えんどう	2 0.4	2 2	○		3加 (Amaranth) 0.4米 (Pea and bean, succulent shelled)		0.06, 0.60 【米国】0.00447~0.0299 (n=6) そらまめを参照
そらまめ らつかせい その他の豆類	0.4	2 2 2			0.4米 (Pea and bean, succulent shelled)		【米国】0.00410~0.178 (n=6)
ばれいしよ さといも類 かんしよ やまいも こんにやくいも その他のいも類	0.3 0.2 0.05 0.2	0.5 0.5 0.5 0.5	○		0.05薯 (Potato)		0.06, 0.02 <0.05, <0.05 0.01, 0.01 <0.05, <0.05
てんさい	0.2	0.2	○				<0.05 (#), <0.05 (#)
だいこん類(ラディッシュを含む)の根 だいこん類(ラディッシュを含む)の葉 かぶ類の根 かぶ類の葉 西洋わさび クレンソウ はくさい	0.2 5 0.1 5 0.05	0.5 5 0.1 5 0.1	○		0.01米 (Vegetable, tuberous and corn) 1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 0.01米 (Vegetable, tuberous and corn) 1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 0.01米 (Vegetable, tuberous and corn)		0.03 (#), <0.01 (#) 1.98 (#), 0.397 (#) 0.02, 0.02 1.02, 1.57 <0.01, <0.01
クレンソウ はくさい	0.5	5	○		3加 (Upland cross) 1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Napa Chinese cabbages)		0.15 (#), 0.18 (#)
キャベツ 芽キャベツ	3 0.3	5 5	○		1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Cabbages) 1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Brussels sprouts)		1.09, 0.90 <0.05, 0.10
ケール	5	5	○		1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Kale)		登録作物群: 非結球アブラナ科 葉菜類(こまつな, チンゲンサイ)
こまつな きょうな チンゲンサイ	5 5 5	5 5 5	○		1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Collards) 1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Bok choy Chinese cabbages)		1.00, 1.76 1.00, 2.25 2.72, 1.22
カリフラワー ブロッコリー	1 2	5 5	○		1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Cauliflower) 1.2米 (Vegetable, brassica, leafy) 加 (Cauliflower)		0.18, 0.34 0.36 (#), 0.64 (#)
その他のあぶらな科野菜	5	5	○		3加 (Garden cress)		0.88, 2.85 (非結球キャベツ)
ごぼう サルシフィー アーティチョーク チコリ		0.1 0.1 5 5			0.01米 (Vegetable, tuberous and corn) 0.01米 (Vegetable, tuberous and corn) 0.01米 (Vegetable, tuberous and corn)		
エンダイブ しゆんぎく レタス	3 5 5	6 5 5	○		3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Radicchio) 3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Endive) 3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Garland chrysanthemum) 3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Head lettuce, Leaf lettuce)		【米国】レタスを参照 【米国】レタスを参照 2.02, 0.39 2.67, 1.02 (ロメインレタス) 【米国】レタス <0.01~0.274 (n=8), サラダ菜 0.106~0.959 (n=8)
その他のさく科野菜	3	5	○		3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Cardoon, Edible leaved chrysanthemum)		1.26, 0.43 (食用ギク)
たまねぎ ねぎ	0.2 4.5	0.2 5	○		0.02米 (Onion, bulb) 4.5米 (Onion, green)		<0.05, <0.05 【米国】<0.006 (n=5), 0.012 【米国】エシャロット (その他のハーブ)を参照
にんにく にら アスパラガス わけぎ その他のゆり科野菜	0.02 5 0.5 3 0.2	0.2 5 5 5 5	○		0.02米 (Onion, bulb) 4.5米 (Onion, green) 4.5米 (Onion, green) 4.5米 (Onion, green)		【米国】たまねぎを参照 1.84, 1.46 0.20, 0.07 1.36, 0.14 <0.05, <0.05 (食用ユリ)
にんじん パースニップ パセリ セロリ		0.1 0.1 5 5	○		0.01米 (Vegetable, tuberous and corn) 0.01米 (Vegetable, tuberous and corn) 3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Fresh parsley leaves) 3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Cerley)		1.10, 0.39 【米国】たまねぎを参照 0.85, 0.30 0.97, 1.82
みつば その他のせり科野菜	5	5 5	○		3米 (Vegetable, leafy, except brassica) 3米 (Vegetable, leafy, except brassica). 加 (Chinese cerley)		
トマト ピーマン なす	2 1 2	5 5 5	○	申	0.2米 (Vegetable, fruiting) 加 (Tomatoes) 0.2米 (Vegetable, fruiting) 加 (Bell peppers) 0.2米 (Vegetable, fruiting) 加 (Eggplants)		0.50 (#), 0.73 (#) 0.32, 0.43 0.150, 0.584 (#)
その他のなす科野菜	2	2	○		0.2加 (Non-bell peppers, Tomatillos)		【韓国】とうがらし 1.14 (#) 0.36, 0.28 (シシトウ)

農産物名	基準値 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
きゅうり	2	5	○・申		0.5 米 (Vegetable, cucurbit)	0.32, 0.52
かぼちや	0.7	2	○		0.5 米 (Vegetable, cucurbit)	0.21, <0.05
しろうり	2	2	○・察		0.5 米 (Vegetable, cucurbit)	きゅうりの残留値の2倍にて緊急登録 (農林水産省からの理由書による要請)
すいか	0.3	0.5	○		0.5 米 (Vegetable, cucurbit)	0.06, 0.09
メロン類果実	0.5		○		0.5 米 (Vegetable, cucurbit)	0.16, 0.14
まくわり					0.5 米 (Vegetable, cucurbit)	
その他のうり科野菜	2	2	○・察		0.5 米 (Vegetable, cucurbit)	しろうりの緊急登録と同期化した対応 (農林水産省からの理由書による要請)
ほうれんそう	3	5	○		3 米 (Vegetable, leafy, except brassica), 加 (Spinach, New Zealand spinach)	0.42, 0.06, 1.52, 0.32 (散布14日後) 【米国】0.031~2.49 (n=8)
たけのこ		0.1			0.01 米 (Vegetable, tuberous and corm)	
オクラ	1	1	○			0.41, 0.18
しよが		0.1			0.01 米 (Vegetable, tuberous and corm)	
未成熟えんどう	2	5	○		0.6 米 (Vegetable, legume, edible podded)	0.84, 0.26
未成熟いんげん	3	5	○		0.6 米 (Vegetable, legume, edible podded)	1.45, 0.50, 0.52, 0.26
えだまめ	3	5	○		0.6 米 (Vegetable, legume, edible podded)	1.42 (#), 0.83 (#)
その他の野菜	5	5	○・申		3 米 (Vegetable, leafy, except brassica), 加 (Garden purslane, Orch leaves, Swiss chard, Vine spinach, Winter purslane)	1.8, 2.8 (ツルナ) (申; モロヘイヤ)
みかん	0.5	1	○		0.5 米 (Fruit, citrus), 加 (Satsuma mandarins)	0.17, 0.02
なつみかんの果実全体	2	5	○		0.5 米 (Fruit, citrus)	0.54, 0.90
レモン	2	5	○		0.5 米 (Fruit, citrus), 加 (Lemons)	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	2	5	○		0.5 米 (Fruit, citrus), 加 (Oranges)	登録作物群; かんきつ (なつみかんの果実全体)
グレープフルーツ	2	5	○		0.5 米 (Fruit, citrus), 加 (Grapefruit, Pommelos)	
ライム	2	5	○		0.5 米 (Fruit, citrus), 加 (Limes)	
その他のかんきつ類果実	2	5	○		0.5 米 (Fruit, citrus), 加 (Calamondins, Citrus citrons, Citrus hybrids, Kumquats, Tangerines)	0.88, 0.53 (カボス)
りんご	2	5	○		1 米 (Fruits, pome), 加 (Apples, Crabapples)	0.39, 0.80 【米国】0.12~0.59 (n=17)
日本なし	2	5	○		1 米 (Fruits, pome), 加 (Oriental pears)	0.28, 0.74
西洋なし	2	5	○		1 米 (Fruits, pome), 加 (Pears)	登録作物群; なし (日本なし)
マルメロ	1	1			1 米 (Fruits, pome), 加 (Quinces)	【米国】りんごを参照
びわ	0.1	1	○		1 加 (Loquats)	<0.01, 0.02
もも	2	5	○		1.2 米 (Fruit, stone, except plum, prune)	0.69, 0.36
ネクタリン	1	1	○		1.2 米 (Fruit, stone, except plum, prune)	0.28, 0.42
あんず(アブリコットを含む)	3	5	○		0.2 米 (Plum, prune, fresh)	登録作物群; 小粒核果類 (すもも)
すもも(プルーンを含む)	3	5	○		0.2 米 (Plum, prune, fresh)	0.12, 1.23
うめ	3	5	○			1.10, 0.62
おうとう(チェリーを含む)	2	5	○		1.2 米 (Fruit, stone, except plum, prune)	0.92, 0.68
いちご	3	5	○		0.6 米 (Berry, low growing subgroups)	0.46, 1.38 【米国】0.04~0.24 (n=10)
ラズベリー	1.6	5			1.6 米 (Caneberry subgroup)	【米国】1.054, 0.779 (#) 登録作物群; ベリー類 (ブラックベリー)
ブラックベリー	1.6	5			1.6 米 (Caneberry subgroup)	【米国】0.302~0.564 (n=5)
ブルーベリー	2	5	○		1.6 米 (Bushberry subgroup)	<0.5, 1.0 【米国】0.0867~0.616 (n=6)
クランベリー	0.6	5			0.6 米 (Berry, low growing subgroups)	【米国】いちごを参照
ハuckleベリー	1.6	5			1.6 米 (Bushberry subgroup)	【米国】ブラックベリーを参照
その他のベリー類果実	2	5			1.6 米 (Bushberry, Caneberry, subgroup)	登録作物群; ベリー類 (ブルーベリー)
ぶどう	5	5	○		0.2 米 (Grape), 加 (Grapes)	2.88, 2.51, 1.47
かき	1	1	○			0.40, 0.20
バナナ						
キウイ	0.2	1	○			<0.05, <0.05
パパイヤ						
アボカド						
パイナップル						
グアバ						
マンゴー	1	1	○			0.44, 0.44 (#)
パッションフルーツ	0.7	1	○			0.04 (#), 0.30 (#)
なつめやし						
その他の果実	1	5	○		1 加 (Mayhaws)	0.44, 0.47 (イチジク)

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
					外国 基準値 ppm		
綿実	0.6	0.6			0.6	米 (Cotton, undelinted seed) 加 (Undelinted cotton seeds)	【米国】 <0.01~0.50 (n=14)
なたね その他のオイルシード		0.01 0.01			0.05 0.01	【米国】 0.05 蕎麦 (Cotton seed) 0.01 米 (Canola, seed), 加 (Rapeseed (canola))	
ぎんなん くり ペカン アーモンド くるみ その他のナッツ類	0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1				0.1 0.1 0.1 5 0.1 0.1	米 (Nut, tree) 米 (Nut, tree) 米 (Nut, tree) 米 (Almond, hulls) 米 (Nut, tree) 米 (Nut, tree, Pistachio)	【米国】ペカンを参照 【米国】ペカンを参照 【米国】 0.009~0.047 (n=6) 【米国】 Nut; <0.01~0.022 (n=6) 【米国】ペカンを参照 【米国】ペカンを参照
茶	30	50	○・申				19.8(#), 21.4 (荒茶)
その他のスパイス	5	5	○		0.2	加 (Pepper hybrids)	2.0, 2.3 (さんしょう) (みかんの皮 2.76, 1.22)
その他のハーブ	5	5	○		3	加 (Argula, Corn salad, Dandelion leaves, Fresh chervil leaves, Fresh Florence fennel leaves and stalks)	2.4, 2.3 (はっかい (スペアミント)) 【米国】 エシャロット 0.050~1.960 (n=6)
牛の筋肉 豚の筋肉 その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.1 0.1 0.1	0.06 0.06 0.06			0.1 0.1 0.1 0.1 0.1	米 (Cattle, meat), 加 (Meat of cattle) 米 (Hog, meat), 加 (Meat of hogs) 米 (Goat, Sheep, meat), 加 (Meat of goats, Meat of sheep) 米 (Horse, meat), 加 (Meat of horses) 米 (mammalian)	
牛の脂肪 豚の脂肪 その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.1 0.1 0.1	0.1 0.1 0.1			0.1 0.1 0.1 0.1 0.1	米 (Cattle, fat), 加 (Fat of cattle) 米 (Hog, fat), 加 (Fat of hogs) 米 (Goat, Sheep, fat), 加 (Fat of goats, Fat of sheep) 米 (Horse, fat), 加 (Fat of horses)	
牛の肝臓 豚の肝臓 その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.2 0.2 0.2	0.1 0.1 0.1			0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2	米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts) 米 (Goat, Sheep, meat byproducts) 米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts) 米 (Goat, Sheep, meat byproducts) 米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts)	
牛の腎臓 豚の腎臓 その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.2 0.2 0.2	0.1 0.1 0.1			0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2	米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts) 米 (Goat, Sheep, meat byproducts) 米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts) 米 (Goat, Sheep, meat byproducts) 米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts)	
牛の食用部分 豚の食用部分 その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.2 0.2 0.2	0.1 0.1 0.1			0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2	米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts) 米 (Goat, Sheep, meat byproducts) 米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts) 米 (Goat, Sheep, meat byproducts) 米 (Cattle, meat byproducts) 米 (Hog, meat byproducts)	
乳 (牛乳、めん羊乳、山羊乳)	0.1	0.06			0.1	米 (Milk), 加 (Milk)	
鶏の筋肉 その他の家さんの筋肉	0.01 0.01	0.01 0.01			0.05 0.01 0.05 0.01	米 (Poultry, meat) 米 (Poultry, meat) 米 (Poultry, meat) 米 (Poultry, meat)	
鶏の脂肪 その他の家さんの脂肪	0.01 0.01	0.01 0.01			0.01 0.01 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.01 0.01	米 (Poultry, fat), 加 (Fat of poultry) 米 (Poultry, fat), 加 (Fat of poultry) 米 (Poultry, Liver), 加 (Liver of poultry) 米 (Poultry, Liver), 加 (Liver of poultry) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs)	
鶏の肝臓 その他の家さんの肝臓	0.05 0.05	0.05 0.05			0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.01 0.01	米 (Poultry, Liver), 加 (Liver of poultry) 米 (Poultry, Liver), 加 (Liver of poultry) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs)	
鶏の腎臓 その他の家さんの腎臓	0.05 0.05	0.05 0.05			0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.01 0.01	米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs)	
鶏の食用部分 その他の家さんの食用部分	0.05 0.05	0.05 0.05			0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.01 0.01	米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Poultry, Edible offal of) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs)	
鶏の卵 その他の家さんの卵	0.01 0.01	0.01 0.01			0.01 0.01	米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs) 米 (Egg), 米 (Eggs), 加 (Eggs)	

平成17年11月29日厚生労働省告示第499号において設定された基準値については、網をつけて示した。
 登録有無の欄の「○」、「申」、「緊」は、それぞれ、現登録の有無、登録内容の変更、農林水産省からの緊急登録申請がなされたものであることを示す。
 【国名】として、基準設定の根拠とされた海外作物残留試験(米国)の該当結果を示す。
 (※) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

アセタミプリド 推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	暴露評価に用いた数値 (ppm)	国民平均 TMDI	国民平均 EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) EDI	妊婦 TMDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) EDI
とうもろこし	0.2	0.05	0.5	0.1	0.9	0.2	0.5	0.1	0.2	0.0
小豆類	2	0.33	2.8	0.5	1.0	0.2	0.2	0.0	5.4	0.9
えんどう	0.4	0.02	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
そらまめ	0.4	0.04	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
ばれいしょ	0.3	0.04	11.0	1.5	6.4	0.9	11.9	1.6	8.1	1.1
さといも類	0.2	0.05	2.3	0.6	1.1	0.3	1.6	0.4	3.5	0.9
やまいも (長いも)	0.05	0.01	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
こんにゃくいも	0.2	0.05	2.6	0.6	1.1	0.3	2.2	0.6	2.7	0.7
てんさい	0.2	0.05	0.9	0.2	0.7	0.2	0.7	0.2	0.8	0.2
だいこん類 (ラディッシュを含む) の根	0.2	0.02	9.0	0.9	3.7	0.4	5.7	0.6	11.7	1.2
だいこん類 (ラディッシュを含む) の葉	5	1.19	11.0	2.6	2.5	0.6	4.5	1.1	17.0	4.0
かぶ類の根	0.1	0.02	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.4	0.1
かぶ類の葉	5	1.30	2.5	0.6	0.5	0.1	1.5	0.4	5.5	1.4
西洋わさび	0.05	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
はくさい	0.5	0.17	14.7	5.0	5.2	1.8	11.0	3.7	15.9	5.4
キャベツ	3	1.00	68.4	22.8	29.4	9.8	68.7	22.9	59.7	19.9
芽キャベツ	0.3	0.08	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ケール	5	5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
こまつな	5	1.38	21.5	5.9	10.0	2.8	8.0	2.2	29.5	8.1
きょうな	5	1.63	1.5	0.5	0.5	0.2	0.5	0.2	1.5	0.5
チンゲンサイ	5	1.97	7.0	2.8	1.5	0.6	5.0	2.0	9.5	3.7
カリフラワー	1	0.26	0.4	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.4	0.1
ブロッコリー	2	0.50	9.0	2.3	5.6	1.4	9.4	2.4	8.2	2.1
その他のあぶらな科野菜	5	1.87	10.5	3.9	1.5	0.6	1.0	0.4	15.5	5.8
チコリ	3	3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
エンダイブ	3	3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
しゅんぎく	5	1.21	12.5	3.0	3.0	0.7	9.5	2.3	18.5	4.5
レタス	5	1.85	30.5	11.3	12.5	4.6	32.0	11.8	21.0	7.8
その他きく科野菜	3	0.87	1.2	0.3	0.3	0.1	1.5	0.4	2.1	0.6
たまねぎ	0.2	0.05	6.1	1.5	3.7	0.9	6.6	1.7	4.5	1.1
ねぎ (リーキ)	4.5	0.80	50.9	9.0	20.3	3.6	36.9	6.6	60.8	10.8
にんにく	0.02	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
にら	5	1.65	8.0	2.6	3.5	1.2	3.5	1.2	8.0	2.6
アスパラガス	0.5	0.14	0.5	0.1	0.2	0.0	0.2	0.1	0.4	0.1
ワケギ	3	0.75	0.6	0.2	0.3	0.1	0.3	0.1	0.9	0.2
その他のゆり科野菜	0.2	0.05	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1
パセリ	3	0.75	0.3	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1
セロリ	3	3	1.2	1.2	0.3	0.3	0.9	0.9	1.2	1.2
みつば	5	1.40	1.0	0.3	0.5	0.1	0.5	0.1	1.0	0.3
トマト	2	0.62	48.6	15.1	33.8	10.5	49.0	15.2	37.8	11.7
ピーマン	1	0.38	4.4	1.7	2.0	0.8	1.9	0.7	3.7	1.4
ナス	2	0.42	8.0	1.7	1.8	0.4	6.6	1.4	11.4	2.4
その他ナス科野菜	2	1.14	0.4	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.6	0.3
きゅうり	2	0.42	32.6	6.8	16.4	3.4	20.2	4.2	33.2	7.0
カボチャ	0.7	0.13	6.6	1.2	4.1	0.8	4.8	0.9	8.1	1.5
しろりり	2	2	0.6	0.6	0.2	0.2	0.2	0.2	1.6	1.6
すいか	0.3	0.08	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メロン類	0.5	0.15	0.2	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
その他ウリ科野菜	2	2	1.0	1.0	0.2	0.2	4.6	4.6	1.4	1.4
ほうれん草	3	0.87	56.1	16.3	30.3	8.8	52.2	15.1	65.1	18.9
オクラ	1	0.30	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.1
未成熟えんどう	2	0.55	1.2	0.3	0.4	0.1	1.4	0.4	1.2	0.3
未成熟インゲン	3	0.68	5.7	1.3	3.6	0.8	5.4	1.2	5.4	1.2
えだまめ	3	1.13	0.3	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1
その他の野菜	5	2.30	63.0	29.0	48.5	22.3	48.0	22.1	61.0	28.1
みかん	0.5	0.10	20.8	4.0	17.7	3.4	22.9	4.4	21.3	4.0
なつみかんの果実全体	2	0.72	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1
レモン	2	2	0.6	0.6	0.4	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6
オレンジ	2	2	0.8	0.8	1.2	1.2	1.6	1.6	0.4	0.4
グレープフルーツ	2	2	2.4	2.4	0.8	0.8	4.2	4.2	1.6	1.6
ライム	2	2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他のかんきつ類果実	2	0.71	0.8	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	1.2	0.4
りんご	2	0.60	70.6	21.2	72.4	21.7	60.0	18.0	71.2	21.4
日本なし	2	0.51	10.2	2.6	8.8	2.2	10.6	2.7	10.2	2.6
西洋なし	2	2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
マルメロ	1	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
びわ	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
もも	2	0.53	1.0	0.3	1.4	0.4	8.0	2.1	0.2	0.1

食品群	基準値案 (ppm)	暴露評価に用いた数値 (ppm)	国民平均 TMDI	国民平均 EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) EDI	妊婦 TMDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) EDI
ネクタリン	1	0.35	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
アンズ (含アブリコット)	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
スモモ	3	0.68	0.6	0.1	0.3	0.1	4.2	1.0	0.6	0.1
ウメ	3	0.86	3.3	0.9	0.9	0.3	4.2	1.2	4.8	1.4
おうとう	2	0.80	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1
イチゴ	3	0.92	0.9	0.3	1.2	0.4	0.3	0.1	0.3	0.1
ラズベリー	1.6	0.92	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1
ブラックベリー	1.6	0.45	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
ブルーベリー	2	0.75	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1
クランベリー	0.6	● 0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ハuckleベリー	1.6	● 1.6	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他ベリー類	2	● 2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
ブドウ	5	2.29	29.0	13.3	22.0	10.1	8.0	3.7	19.0	8.7
かき	1	0.30	31.4	9.4	8.0	2.4	21.5	6.5	49.6	14.9
キウイ	0.2	0.05	0.4	0.1	0.3	0.1	0.2	0.1	0.4	0.1
マンゴー	1	0.44	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
パッションフルーツ	0.7	0.17	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
その他の果実	1	0.46	3.9	1.8	5.9	2.7	1.4	0.6	1.7	0.8
綿実 (種子)	0.6	0.12	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ぎんなん	0.1	● 0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.1	● 0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1
ペカン	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.1	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
クルミ	0.1	● 0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他ナッツ類	0.1	● 0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	30	20.6	90.0	61.8	42.0	28.8	105.0	72.1	129.0	88.6
その他のスパイス	5	2.15	0.5	0.2	0.5	0.2	0.5	0.2	0.5	0.2
その他のハーブ	5	2.4	0.5	0.2	0.5	0.2	0.5	0.2	0.5	0.2
陸棲ほ乳類の肉類	0.2	☆ 2.2	11.5	126.5	6.6	72.4	12.1	133.1	11.7	128.5
陸棲ほ乳類の乳類	0.1	● 0.1	14.3	14.3	19.7	19.7	18.3	18.3	14.5	14.5
家禽の肉類	0.05	● 0.05	1.0	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8	1.0	1.0
家禽の卵類	0.01	● 0.01	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4
計	-	-	816.6	421.6	474.7	252.2	709.4	405.0	890.6	455.2
ADI比 (%)	-	-	21.6	11.1	42.3	22.5	18.0	10.3	23.1	11.8

●印は、個別の作物残留試験がないことから、暴露評価を行うに当たり、基準値(案)の数値を用いた。
☆印は、牛肉中の代謝物 IM-2-2 (IM-2-1-amide) の残留も勘案し、基準値(案)の11倍の暴露量をもって推計。
(EPA 11/5/2004 MEMORANDUM)

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)
EDI: 推定一日摂取量 (Estimated Daily Intake)

アセタミプリドの短期暴露量推計に係る概算結果（暫定版）

（参考）

国民全体		(>120人)				平成20年12月現在			
食品	MRL (ppm)	97.5パーセンタイル消費量 (g/人)	体重 (kg)	可食部重量 (g)	変動係数	ケース	NESTI (μg/kg bw/day)	%ARfD	
1	ばれいしょ	0.3	188.7	54.5	162	3	2a	3	3
2	やまいも	0.05	158.0	56.3	810	3	2b	0.4	-
3	だいこん類の根	0.2	234.6	56.1	1,170	3	2b	3	3
4	だいこん類の葉	5	135.3	54.8	360	3	2b	37	40
5	かぶ類の根	0.1	158.1	56.8	127	3	2a	1	1
6	かぶ類の葉	5	87.0	55.1	35	3	2a	14	10
7	はくさい	0.5	244.8	55.6	2,162	3	2b	7	7
8	キャベツ	3	178.5	55.4	1,190	3	2b	29	30
9	こまつな	5	137.7	54.1	323	3	2b	38	40
10	きょうな(みすな)	5	138.0	54.5	34	3	2a	19	20
11	チンゲンサイ	5	137.3	53.4	102	3	2a	32	30
12	カリフラワー	1	163.2	52.9	355	3	2b	9	9
13	ブロッコリー	2	107.1	55.2	150	3	2b	12	10
14	レタス	5	112.2	55.9	480	3	2b	30	30
15	たまねぎ	0.2	153.0	54.8	244	3	2b	2	2
16	ねぎ	4.5	75.7	52.6	60	3	2a	17	20
17	にんにく	0.02	20.4	57.6	60	3	2b	0.02	-
18	トマト	2	224.4	55.6	175	3	2a	21	20
19	なす	2	209.1	57.1	66	3	2a	12	10
20	きゅうり	2	168.3	55.5	98	3	2a	13	10
21	ほうれんそう	3	147.9	55.0	270	3	2b	24	20
22	オクラ	1	77.3	55.4	9	1	1	1	1
23	えだまめ	3	112.2	54.0	2	1	1	6	6
24	みかん	0.5	321.3	53.7	88	3	2a	5	5
25	レモン	2	76.5	54.8	116	3	2b	8	8
26	オレンジ	2	198.9	52.1	132	3	2a	18	20
27	グレープフルーツ	2	300.9	56.4	308	3	2b	32	30
28	りんご	2	275.4	54.7	213	3	2a	26	30
29	ぶどう	5	234.6	53.5	128	3	2a	46	50
30	かき	1	362.1	56.2	228	3	2a	15	20

6歳以下		(>120人)							
食品	MRL (ppm)	97.5パーセンタイル消費量 (g/人)	体重 (kg)	可食部重量 (g)	変動係数	ケース	NESTI (μg/kg bw/day)	%ARfD	
1	ばれいしょ	0.3	122.4	16.6	162	3	2b	7	7
2	だいこん類の根	0.2	127.5	16.2	1,170	3	2b	5	5
3	はくさい	0.5	86.7	16.3	2,162	3	2b	8	8
4	キャベツ	3	91.8	16.1	1,190	3	2b	51	50
5	レタス	5	51.0	16.8	480	3	2b	46	50
6	たまねぎ	0.2	102.0	16.4	244	3	2b	4	4
7	ねぎ	4.5	37.6	15.9	60	3	2b	32	30
8	トマト	2	153.0	16.0	175	3	2b	57	60
9	きゅうり	2	91.4	16.8	98	3	2b	33	30
10	ほうれんそう(変更前;HR)	13	81.6	16.8	270	3	2b	189	190
	ほうれんそう(変更後;MRL)	3	81.6	16.8	270	3	2b	44	40
11	みかん	0.5	137.7	16.2	88	3	2a	10	10
12	レモン	2	25.5	17.3	116	3	2b	9	9
13	りんご	2	182.9	16.2	213	3	2b	68	70

(参考)

これまでの経緯

- 平成 7 年 1 1 月 2 8 日 初回農薬登録
- 平成 9 年 9 月 1 日 ばれいしょ等 2 4 農作物に食品衛生法に基づく残留農薬基準を設定
- 平成 1 1 年 8 月 2 4 日 環境庁登録保留基準の改定 (第二葉菜類等)
- 平成 1 7 年 1 1 月 2 9 日 食品衛生法改正に伴う残留農薬基準の告示
- 平成 1 8 年 5 月 2 9 日 農薬等のポジティブリスト制度の施行
- 平成 2 0 年 2 月 1 2 日 厚生労働大臣から食品安全委員会長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成 2 0 年 2 月 1 4 日 第 2 2 6 回 食品安全委員会 (要請事項説明)
- 平成 2 0 年 5 月 1 3 日 第 2 1 回 農薬専門調査会総合評価第一部会
- 平成 2 0 年 6 月 3 日 第 3 9 回 農薬専門調査会幹事会
- 平成 2 0 年 6 月 1 9 日 第 2 4 3 回 食品安全委員会 (報告)
- 平成 2 0 年 6 月 1 9 日 ~ 7 月 1 8 日 国民からの意見・情報の募集
- 平成 2 0 年 8 月 6 日 第 2 4 回 農薬専門調査会 総合評価第一部会
- 平成 2 0 年 8 月 2 6 日 農薬専門調査会座長より食品安全委員会委員長への報告
- 平成 2 0 年 8 月 2 8 日 第 2 5 2 回 食品安全委員会 (報告)
- 平成 2 0 年 8 月 2 9 日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成 2 0 年 1 2 月 4 日 薬事・食品衛生審議会へ諮問
- 平成 2 0 年 1 2 月 9 日 薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会
- 平成 2 1 年 2 月 3 日 薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会
- 平成 2 1 年 2 月 1 6 日 在京大使館への説明
- 平成 2 1 年 3 月 1 0 日 WTO 通報
- ~ 5 月 9 日
- 平成 2 1 年 3 月 1 9 日 食品衛生法第 6 4 条に基づく意見の聴取
- ~ 4 月 1 7 日
- 平成 2 2 年 1 月 2 7 日 薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- | | |
|---------|---|
| 青木 宙 | 東京海洋大学 大学院海洋科学技術研究科 教授 |
| 井上 松久 | 北里大学 副学長 (～平成21年1月22日) |
| 生方 公子 | 北里生命科学研究所 感染制御免疫学部門 感染情報学研究室
感染制御学府 教授 (平成21年1月23日～) |
| ○大野 泰雄 | 国立医薬品食品衛生研究所 副所長 |
| 尾崎 博 | 東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授 |
| 加藤 保博 | 財団法人 残留農薬研究所 理事 |
| 斉藤 貢一 | 星薬科大学 薬品分析化学教室 准教授 |
| 佐々木 久美子 | 元国立医薬品食品衛生研究所 第一室長 |
| 志賀 正和 | 元独立行政法人 農業技術研究機構 中央農業総合研究センター
虫害防除部長 |
| 豊田 正武 | 実践女子大学 生活科学部 生活基礎化学研究室 教授 |
| 松田 りえ子 | 国立医薬品食品衛生研究所 食品部長 |
| 山内 明子 | 日本生活協同組合連合会 組織推進本部 本部長 |
| 山添 康 | 東北大学 大学院薬学研究科 医療薬学講座薬物動態学分野 教授 |
| 吉池 信男 | 公立大学法人 青森県立保健大学 健康科学部 栄養学科長 |
| 由田 克士 | 独立行政法人 国立健康・栄養研究所 栄養疫学プログラム
プログラムリーダー |
| 鰐淵 英機 | 大阪市立大学 大学院医学研究科 都市環境病理学 教授 |
- (○：部会長)

答申(案)

アセタミプリド

食品名	残留基準値 ppm
とうもろこし	0.2
小豆類	2
えんどう	0.4
そらまめ	0.4
ばれいしょ	0.3
さといも類	0.2
やまいも	0.05
こんにゃくいも	0.2
てんさい	0.2
だいこん類の根	0.2
かぶ類の根	0.1
かぶ類の葉	5
西洋わさび	0.05
はくさい	0.5
キャベツ	3
芽キャベツ	0.3
ケール	5
こまつな	5
きょうな	5
チンゲンサイ	5
カリフラワー	1
ブロッコリー	2
その他のあぶらな科野菜 (注1)	5
チコリ	3
エンダイブ	3
しゅんぎく	5
レタス	5
その他きく科野菜 (注2)	3
たまねぎ	0.2
ねぎ	4.5
にんにく	0.02
にら	5
アスパラガス	0.5
わけぎ	3
その他のゆり科野菜 (注3)	0.2
パセリ	3
セロリ	3
みつば	5
トマト	2
ピーマン	1
なす	2
その他なす科野菜 (注4)	2
きゅうり	2
かぼちゃ	0.7
しろうり	2
すいか	0.3
メロン類果実	0.5
その他うり科野菜 (注5)	2
ほうれんそう	3
オクラ	1
未成熟えんどう	2
未成熟いんげん	3
えだまめ	3
その他の野菜 (注6)	5

食品名	残留基準値 ppm
みかん	0.5
なつみかんの果実全体	2
レモン	2
オレンジ	2
グレープフルーツ	2
ライム	2
その他のかんきつ類果実 (注7)	2
りんご	2
日本なし	2
西洋なし	2
マルメロ	1
びわ	0.1
もも	2
ネクタリン	1
あんず	3
すもも	3
うめ	3
おうとう	2
いちご	3
ラズベリー	1.6
ブラックベリー	1.6
ブルーベリー	2
クランベリー	0.6
ハuckleベリー	1.6
その他ベリー類 (注8)	2
かき	1
キウイ	0.2
マンゴー	1
パッションフルーツ	0.7
その他の果実 (注9)	1
綿実	0.6
ぎんなん	0.1
くり	0.1
ペカン	0.1
アーモンド	0.1
くるみ	0.1
その他のナッツ類 (注10)	0.1
茶	30
その他のスパイス (注11)	5
その他のハーブ (注12)	5

食品名	残留基準値 ppm
牛の筋肉 ※	0.1
豚の筋肉 ※	0.1
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉 ※ (注13)	0.1
牛の脂肪 ※	0.1
豚の脂肪 ※	0.1
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪 ※	0.1
牛の肝臓 ※	0.2
豚の肝臓 ※	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓 ※	0.2
牛の腎臓 ※	0.2
豚の腎臓 ※	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓 ※	0.2
牛の食用部分 ※ (注14)	0.2
豚の食用部分 ※	0.2
※	0.2
乳 ※	0.1

食品名	残留基準値 ppm
鶏の筋肉 ※	0.01
その他の家さんの筋肉 ※ (注15)	0.01
鶏の脂肪 ※	0.01
その他の家さんの脂肪 ※	0.01
鶏の肝臓 ※	0.05
その他の家さんの肝臓 ※	0.05
鶏の腎臓 ※	0.05
その他の家さんの腎臓 ※	0.05
鶏の食用部分 ※	0.05
その他の家さんの食用部分 ※	0.05
鶏の卵 ※	0.01
その他の家さんの卵 ※	0.01

※ 畜産物においては、アセタミプリド及び代謝物IM-2-1
 $(N^1-[(6\text{-クロロ-3-ピリジル)メチル}] - N^2\text{-シアノアセトアミジン})$ をアセタミプリドに換算したものの和をいうこと。

(注1)「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類の根、だいこん類の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。

(注2)「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス及びハーブ以外のものをいう。

(注3)「その他のゆり科野菜」とは、ゆり科野菜のうち、たまねぎ、ねぎ、にんにく、にら、アスパラガス、わけぎ及びハーブ以外のものをいう。

(注4)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。

(注5)「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり、かぼちや、しろうり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。

(注6)「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。

(注7)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。

(注8)「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。

(注9)「その他の果実」とは、果実のうち、かんきつ類果実、りんご、日本なし、西洋なし、マルメロ、びわ、もも、ネクタリン、あんず、すもも、うめ、おうとう、ベリー類果実、ぶどう、かき、バナナ、キウイ、パパイヤ、アボガド、パイナップル、グアバ、マンゴー、パッションフルーツ、なつめやし及びスパイス以外のものをいう。

(注10)「その他のナッツ類」とは、ナッツ類のうち、ぎんなん、くり、ペカン、アーモンド及びくるみ以外のものをいう。

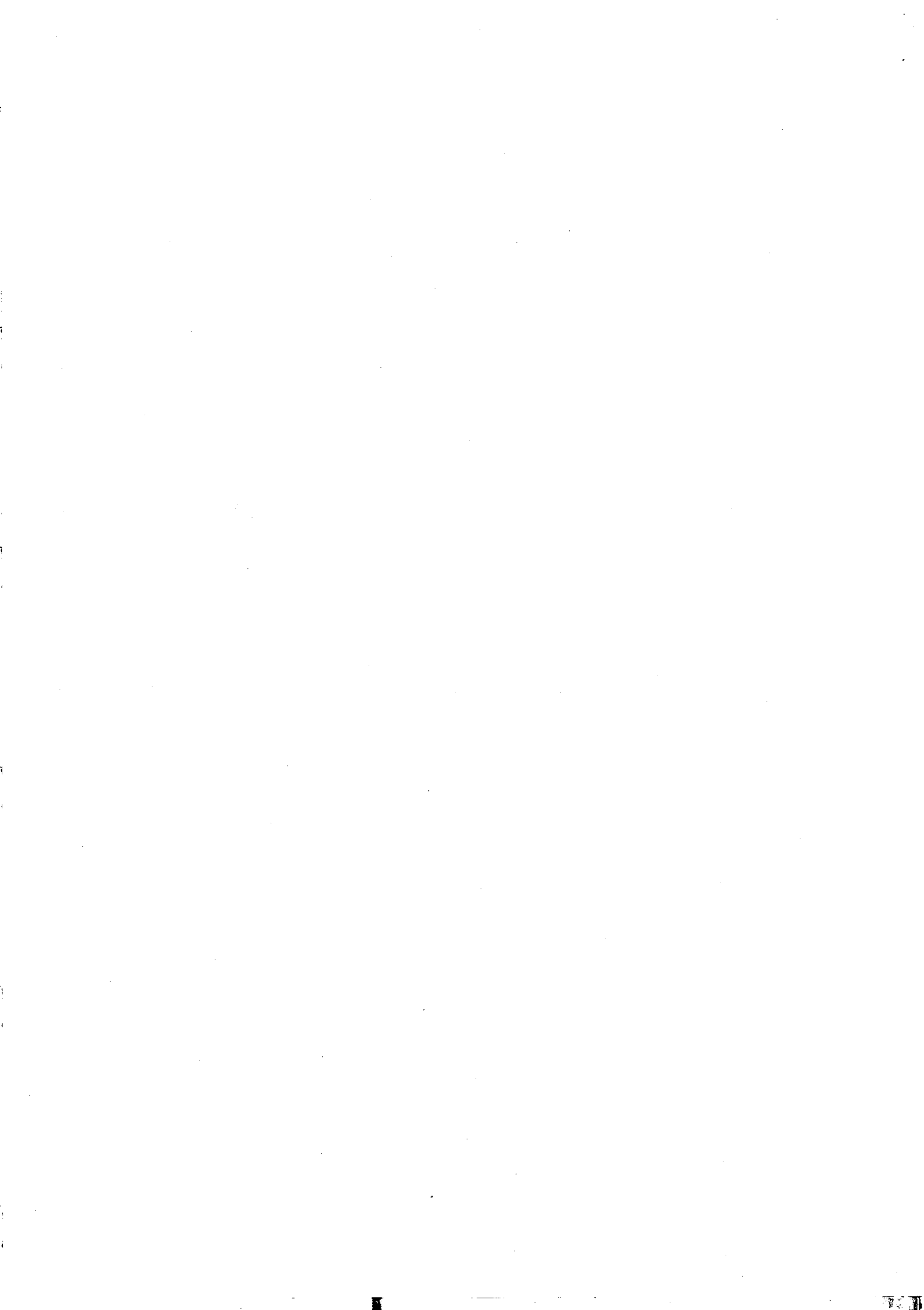
(注11)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。

(注12)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。

(注13)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。

(注14)「牛、豚、鶏等の食用部分」とは、牛、豚、鶏等の食用部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓を除いた部分をいう。

(注15)「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。



アセタミプリドに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定
に対して寄せられたコメントについて

1. 第128回 食品輸入円滑化推進会議（在京大使館への説明）において、寄せられたコメント

- (1) 募集期間

平成21年2月16日～平成21年3月2日

- (2) 寄せられた意見数

1

2. 「食品、添加物等の規格基準（昭和34年 厚生省告示 第370号）の一部改正（食品中の農薬アセタミプリドの残留基準設定）」に関する意見の募集に対して、寄せられたコメント

- (1) 募集期間

平成21年3月19日～平成21年4月17日

- (2) 寄せられた意見数

4

3. WTO通報（衛生植物検疫措置の適用に関する協定（SPS協定）に基づく通報）に対して、寄せられたコメント

- (1) 募集期間

平成21年3月10日～平成21年5月9日

- (3) 寄せられた意見数

1

アセタミプリド

番号	ご意見・情報 (概略)
1	<p>[食品輸入円滑化推進会議でのコメント]</p> <p>アセタミプリドの残留基準が大幅強化されることにより韓国産農産物の対日輸出に支障を来すことが憂慮されております。</p> <p>唐辛子は韓国の代表的な園芸作物として韓国国内で広く栽培されている現状ですが、貴国におきましての唐辛子の分類は「その他のなす科野菜」の植物として分類され 基準が現在の 2ppm から 1ppm に引き上げれば事実上、対日輸出する唐辛子には使用が出来なくなります。</p> <p>わが国における Acetamiprid の基準値は 2ppm であり、アブラムシ類、蛾類、シラミ類、アザミウマなど広範囲の害虫防除に使われている現状であります。</p> <p>今回の設定案に関しましては、一般的に唐辛子に残留する量はピーマン (パプリカ) の残留量の約 2 培程度多いことを勘案して頂きまして Acetamiprid の貴国の「その他のなす科」に関する残留基準を現在の基準値の 2ppm に設定されますよう強く要望する次第であります。</p> <p>アセタミプリド (Acetamiprid) に関する韓国政府としての意見を提出しますので何卒よろしくお願い申し上げます。</p>
2-1	<p>[以下 2-4 まで、パブリックコメントでの御意見]</p> <p>ア. 今回の提案で、食品におけるネオニコチノイド系アセタミプリド残留基準値を現行の基準より引き下げることについては評価する。</p> <p>その理由として</p> <p>(ア) 日本のアセタミプリド残留基準値は総じて諸外国よりかなり高い。</p> <p>(イ) アセタミプリドは、欧米で規制の対象となったイミダクロプリドと構造がよく似たクロロピリジニルネオニコチノイドであり、イミダクロプリドと同様、水溶性で残留性が高く、代謝産物にも生物活性がある。イミダクロプリドの残留基準値と比べてもアセタミプリド残留基準値はかなり高い。</p> <p>(ウ) 食品残留ネオニコチノイドが原因と思われる健康障害を我々は平成18年頃より少なくとも数百例診断治療している。患者はいずれも、茶飲料および国産果物の連続または大量摂取後に、亜急性の頭痛、めまい、吐気、嘔吐、胸痛、動悸、筋肉痛、筋脱力、振戦、記憶障害、発語障害、意識障害、心電図異常をきたし、診断治療にいたるまでに数百日を要した例もあった。全例、茶飲料および国産果物の摂取禁止とグルクロン酸、グルタチオン、乳酸菌製剤を主体とする治療により数日から数十日の経過で回復した。</p> <p>(エ) 我々は発症契機と臨床症状からネオニコチノイド中毒が疑われた7人の非喫煙女性の治療経過中の尿を採取し、患者の同意を得た上でイオンクロマトグ</p>

番号	ご意見・情報 (概略)
	<p>ラフィーおよびLC-MSにより、6-chloronicotinic acid(6CNA)の分析を行い、6CNAと思われるピークを検出した。現在定性のための確認作業中である。6CNAは、クロロピリジニル基をもつネオニコチノイド、すなわちクロロピリジニルネオニコチノイド(イミダクロプリド、ニテンピラム、アセタミプリド、チアクロプリド)に特有で共通の尿中代謝産物である。うち1例は前医にてWPW症候群の頻脈発作と診断されβブロッカー投与による意識消失発作を繰り返していた。原因となったクロロピリジニルネオニコチノイドとして、日本において単位面積当たりの散布量が最も多く、食品残留基準も欧米に比して高く設定されているアセタミプリドが疑わしい。</p> <p>イ. 畜産物のアセタミプリド残留基準値に代謝産物IM2-1も含むとしたのは評価する。</p> <p>ウ. しかし、今回提示されたアセタミプリド残留基準値の下げ幅は不十分である。</p> <p>その理由として、</p> <p>(ア)たとえば茶葉においてアセタミプリドは、投与後数日で部分的に代謝され、原体としてほとんど検出されなくなる、というデータが出されている(Guptaら、Food Chemistry 111 (2008) 805-810)。この結果はメーカーの提出したデータと矛盾するが、検証に値するものと考え。アセタミプリドは代謝産物にも生物活性があるため、アセタミプリドを用いて栽培された植物にアセタミプリド原体がほとんど検出されないからといって安全とは限らないこともあるらしい。代謝産物が植物体内に大量に存在しているかもしれないことを考慮すれば、アセタミプリド残留基準値のADIに対する安全率は、少なくとも10倍多く見積もるべきである。すなわち、残留基準値を、現行の10分の1以下にするのが適切である。</p> <p>(イ)アセタミプリドの残留基準値の設定にあたって、農薬使用基準に基づいて栽培された作物の残留値をもとに算出されているが、そもそも、この使用基準が適切なものであるかどうかの検討が不十分である。日本の農薬使用基準によれば、欧米の10倍以上の単位面積当たりの量が散布可能である。不必要な過剰散布を国が奨励している可能性が、今回の見直しでは検討されていない。見直しの前に、まず再度アセタミプリドの使用基準が適正であるか、検討する必要がある。</p> <p>(ウ)現行の残留基準値では、果物などを多量に摂取するとARFDを超過する。健康障害防止の観点からすると、季節的に多量摂取の可能性のある食品、たとえばぶどう、なし、もも、りんご、みかんなどのアセタミプリド残留基準値は、</p>

番号	ご意見・情報 (概略)																																																
	<p>現行の10分の1以下に下げることがある。</p> <p>(エ)日本において生産された作物が諸外国へ輸出される場合を考えると、今回の改訂基準では、ほとんどの国の基準を満たさない。すなわち、事実上、日本の作物の多くは、輸出不可能となる。海外でも人気の高い高品質の作物を輸向けに生産しようとする農家の不利益となる。</p> <p>(オ)過去数年間に散布されたアセタミプリドが代謝産物も含めてどの程度環境中および作物中に残留蓄積されているかについて、最近のデータがない。日本の果物、野菜の生産の多くは、山梨、長野、群馬など内陸の水源地に近い場所で行われており、これらの自治体ではアセタミプリドの使用量が多い。土壌への蓄積および水道の原水へのアセタミプリド混入はすでにおこっていると考えられる。早急に現状の調査を行い、アセタミプリド残留基準見直しの資料とするべきである。予防原則からすれば、環境アセタミプリド汚染がないことが確認されるまで、アセタミプリド残留基準値は暫定的に低い値に設定するのが適切である。</p> <p>(カ)食品残留アセタミプリドによる中毒が強く疑われる患者の発生がみられる。現行のアセタミプリド使用基準に従って作られた作物が原因である可能性があり、今回提案された残留値では、今後の患者の発生を抑えることは困難と思われる。</p>																																																
2-2	<p>命令書の案の一部を以下の変更案のように改定すること。</p> <p>命令書の変更案</p> <p>アセタミプリド (殺虫剤)</p> <table border="1" data-bbox="368 1267 1358 1951"> <thead> <tr> <th data-bbox="368 1267 692 1413">食品名</th> <th data-bbox="692 1267 868 1413">残留基準値 (変更案) ppm</th> <th data-bbox="868 1267 1182 1413">食品名</th> <th data-bbox="1182 1267 1358 1413">残留基準値 (変更案) ppm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小豆類</td> <td>0.4</td> <td>きゅうり</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>えんどう</td> <td>0.4</td> <td>かぼちゃ</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>そら豆</td> <td>0.4</td> <td>しろうり</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>らっかせい</td> <td>0.4</td> <td>まくわうり</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>その他の豆類</td> <td>0.4</td> <td>その他のうり科野菜</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>ばれいしょ</td> <td>0.05</td> <td>たけのこ</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>さといも類</td> <td>0.05</td> <td>オクラ</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>かんしょ</td> <td>0.01</td> <td>しょうが</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>やまいも</td> <td>0.05</td> <td>未成熟えんどう</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>こんにゃくいも</td> <td>0.05</td> <td>未成熟いんげん</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>その他のいも類</td> <td>0.01</td> <td>えだまめ</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>	食品名	残留基準値 (変更案) ppm	食品名	残留基準値 (変更案) ppm	小豆類	0.4	きゅうり	0.5	えんどう	0.4	かぼちゃ	0.5	そら豆	0.4	しろうり	0.5	らっかせい	0.4	まくわうり	0.5	その他の豆類	0.4	その他のうり科野菜	0.5	ばれいしょ	0.05	たけのこ	0.01	さといも類	0.05	オクラ	0.01	かんしょ	0.01	しょうが	0.01	やまいも	0.05	未成熟えんどう	0.6	こんにゃくいも	0.05	未成熟いんげん	0.6	その他のいも類	0.01	えだまめ	0.6
食品名	残留基準値 (変更案) ppm	食品名	残留基準値 (変更案) ppm																																														
小豆類	0.4	きゅうり	0.5																																														
えんどう	0.4	かぼちゃ	0.5																																														
そら豆	0.4	しろうり	0.5																																														
らっかせい	0.4	まくわうり	0.5																																														
その他の豆類	0.4	その他のうり科野菜	0.5																																														
ばれいしょ	0.05	たけのこ	0.01																																														
さといも類	0.05	オクラ	0.01																																														
かんしょ	0.01	しょうが	0.01																																														
やまいも	0.05	未成熟えんどう	0.6																																														
こんにゃくいも	0.05	未成熟いんげん	0.6																																														
その他のいも類	0.01	えだまめ	0.6																																														

番号	ご意見・情報 (概略)			
	てんさい	0.01	その他の野菜	3
	だいこん類の根	0.01	なつみかんの果実全体	0.5
	だいこん類の葉	1.2	レモン	0.5
	かぶ類の根	0.01	オレンジ	0.5
	かぶ類の葉	1.2	グレープフルーツ	0.5
	西洋わさび	0.01	ライム	0.5
	クレソン	0.01	その他のかんきつ類果 実	0.5
	はくさい	0.5	りんご	1
	キャベツ	1.2	日本なし	1
	芽キャベツ	0.3	西洋なし	1
	ケール	1.2	マルメロ	0.01
	こまつな	1.2	びわ	0.1
	きょうな	1.2	もも	1.2
	チンゲンサイ	1.2	あんず	0.2
	カリフラワー	1	すもも	0.2
	ブロッコリー	1.2	うめ	1.2
	その他のあぶらな科野 菜	3	おうとう	1.2
	ごぼう	0.01	いちご	0.6
	サルシフィー	0.01	ブルーベリー	1.6
	アーティチョーク	0.01	クランベリー	0.01
	しゅんぎく	3	その他のベリー類果実	1.6
	レタス	3	ぶどう	0.2
	たまねぎ	0.02	綿実	0.3
	にら	4.5	茶	5
	にんじん	0.01	その他のスパイス	0.2
	パースニップ	0.01	その他のハーブ	3
	みつば	3	牛の筋肉	0.01
	その他のせり科野菜	3	豚の筋肉	0.01
	トマト	0.2	その他の陸棲哺乳類に 属する動物の筋肉	0.01
	ピーマン	0.2	牛の肝臓	0.1
	なす	0.2	豚の肝臓	0.1
	その他のなす科野菜	0.2	その他の陸棲哺乳類に	0.1

番号	ご意見・情報 (概略)		
			属する動物の肝臓
			乳 0.06
<p>理由：</p> <p>アセタミプリドのMRLは、残留基準案、現行基準、国際基準のうち最も低い値に設定されるべきである。</p> <p>そもそも、本改定は野菜・果物の大量摂取によるアセタミプリド中毒患者発生の報告を受けて行われたものである。本改定はアセタミプリドのMRLをGAPの範囲内で可能な限り低くすることが本旨でなければならない。現行基準、残留基準案、国際基準の全てが、GAPに準じた作残試験から得られた値なので、その中の最小値をアセタミプリドのMRLとすることに、技術的な問題は全くない。</p> <p>野菜・果物の大量摂取によるアセタミプリド中毒患者は確立されたものでないことは事実である。しかし、厚労省の薬害の発生の歴史を紐解けば、水俣病、スモン、サリドマイド、イタイイタイ病、薬害HIV、薬害肝炎、化学物質過敏症、シックハウス症候群など、いずれも問題の発生時に対策を講じていれば被害者の増大を防げた可能性のある例の枚挙に暇がない。</p> <p>厚労省医薬食品局食品安全部基準審査課は、それら前例を認識し、未発の被害を防ぐため現時点で必要十分な対策を講じる責任と義務がある。アセタミプリドの残留基準値（変更案）は、現在の技術で実現可能であり、極めて実効性が高い。</p> <p>以上の理由から、命令書の案の一部を上記の変更案にする必要がある。</p> <p>補足意見：</p> <p>(1)本改定はあくまでも暫定的な改定である。アセタミプリドのMRLの更なる低減に向け、産官学が共同して研究・改善を続ける必要がある。特にGAPの見直しは急務である。</p> <p>(2)アセタミプリドはネオニコチノイド系殺虫剤の一つである。共通の作用機序を有する他のネオニコチノイド系殺虫剤との相乗・相加作用について詳しく知られていないので、官学が共同して研究する必要がある。</p> <p>(3)ネオニコチノイド系殺虫剤がミツバチの大量死の原因である可能性が指摘されている。近年のミツバチの大量死と、アセタミプリドなどネオニコチノイド系殺虫剤の使用との関連について十分な調査と対策が必要である。</p> <p>(4)今回の改訂では急性参照要量（ARfD）が設定されているにも拘らず、アセ</p>			

番号	ご意見・情報 (概略)
	<p>タミプリドの短期曝露量が審査されていない。従来のADIの計算だけでは不十分である。短期曝露量の評価は、1日あたりの最大摂取量(97.5パーセントイル)とMRLの積がARFDの80%を下回らなければならない。</p> <p>EUの計算方法と、EUの食品の最大摂取量(97.5パーセントイル)を用いて、残留基準値案を評価したところ、りんご(142%)、なし(128%)、もも(120%)、ぶどう(122.5%)、トマト(100%)などで、子供のIESTI/ARFD値が80%を超過した。安全性に問題があることを示唆する。一方、残留基準値(変更案)で評価した場合、いずれも80%を下回った。これも残留基準値(変更案)を採用すべき理由である。</p> <p>(5)使用方法を海外(米国)と比べると、単位面積当りの使用量が、日本の方が米国よりも過剰であるケースが多い。例えば、ブドウの場合、米国では0.05 lb ai/A (5.6 g ai/1000m²)だが、日本では70 g ai/1000m²が上限である。日本の単位面積当りの使用量は、実に米国の12.5倍である。ブドウにおける日本での過剰な使用量の設定が、米国の10倍以上の残留値となり、10倍以上の残留基準が要請されたのである。ブドウは米国でも日本でもブドウである。</p> <p>米国の使用量で殺虫効果が得られるのであれば、日本でも実施可能である。他にも、リンゴや桃(4.2倍)、ジャガイモやトマト(3.6倍)、メロン類(2.7倍)、かんきつ類(2.5倍)、イチゴ(2.1倍)など大部分の作物の使用量が、米国よりも過剰に設定されている。GAPは、そもそも環境や収穫物への農薬の残留を最小に抑えるための方法と規定されている。過剰な農薬の使用は、収穫物のみならず、環境への過剰な農薬の残留となり、ミツバチの大量死との関連もありうる。日本の使用方法をGAPに即したものに改定すべく行政指導を行う必要がある。</p> <p>(6)野菜・果物の大量摂取によるアセタミプリド中毒患者は、未報告だからなのではなく、その認識がないから報告がないのである。アセタミプリド中毒の症例報告には、頻脈、脱力感、血圧低下、体温低下、代謝性アシドーシス、発作性心房発作が認められた(戸谷ら、中毒研究21:387-390、2008)。アセタミプリドはニコチン受容体に作動する。心電図異常はアセタミプリド中毒の重要な症状と考えられる。心電図のない動物の一般薬理試験の結果を、人の臨床報告よりも重要視することは、本末転倒である。さらに患者の尿からSCNが検出された。シアンがアセタミプリドから生成し、アシドーシスを引き起こした可能性がある。化学物質過敏症やシックハウス症候群も、その実態が理解されるまでないとされていた。</p> <p>水俣病の原因解明が遅れたことが、患者の増大を生み、解決の長期化の原因に</p>

番号	ご意見・情報（概略）
	<p>もなった。厚労省は、緊急に、野菜・果物の大量摂取によるアセタミプリド中毒を調査する研究班を設置し、十分な人員と費用と時間を掛けて解明する必要がある。</p>
2-3	<p>アセタミプリドの基準値案で削除が提案されております、クランベリー、マルメロ、えんどう、そらまめにつきましては、米国からの輸入があるため、残留基準値を維持して頂きますよう要望致します。米国でこれらの作物の基準値を支持する作物残留試験成績（いちご、りんご・なし、豆類）を提出する用意がありますのでご検討下さい。</p>
2-4	<p>下記の理由により再検討をお願い申し上げます。</p> <p>前回のパブリックコメント^{*1)}にあるように、現行の規制下で健康被害が起きております。</p> <p>増加の一途をたどり、社会問題となっているシックハウスや過敏な患者は、食べるものもなくなり困窮しているのです。今回の改定は大変残念な結果です。</p> <p>今回提示された数値では、現行とあまり変わらないため、今後さらなる被害の拡大を防ぎえないと大変憂慮しております。</p> <p>メーカー資料、「アセタミプリド(モスピラン)の毒性学的安全性」の生体の機能に及ぼす影響の一般薬理試験の結果と、患者のアセタミプリドによる長期微量/反復摂取による症状は酷似しています。</p> <p>アセタミプリドの一般薬理試験（農薬時代第173号 P35）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律神経系に対する作用： 血圧降下、散瞳及び胃腸管運動抑制等 ・骨格筋に対する作用：筋弛緩作用 ・中枢神経に対する作用：振戦及び自発運動量減少 ・その他の作用：抗利尿作用 <p>・これらの作用は、主として神経系、特に自律神経節及び神経筋接合部による遮断作用と考えられる。</p> <p>また、メーカー資料、マツグリーン液材²⁾によれば、アセタミプリドは蒸気圧が低く、散布した作物から大気への移行は少なく、土壌中や河川水中では微生物などによって速やかに分解されるため、土壌・水系汚染の可能性が少ない薬剤と説明されています。</p> <p>しかし、国立機関（高等専門学校）の研究報告によれば、産地では連作障害防止のために徹底した土壌消毒を行っており、土壌生態系は破壊され、残留農薬の自然水域への流出や農作業者の健康被害も懸念されています^{*2)}。</p> <p>微生物の少ない環境は自然界で多く存在し、そういった場所の汚染が懸念されます。</p> <p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺菌剤を使用している畑から地下水を通る。

番号	ご意見・情報（概略）
	<p>・その成分だけでは蒸気圧が低い、水に溶け水と共に蒸発し雨になり関係のない場所に落ちる。</p> <p>・雨水に溶け込んだ成分が、そのまま河川に入り飲料水の取水口に届く。</p> <p>実際に、土壌汚染や水系汚染の拡散の結果と考えられる、ミネラルウォーターや農薬不使用の土地の作物で、ここ半年の間に、アセタミプリドと思われる症状を訴え、食べられなくなった人の体験が多く寄せられています。</p> <p>前回の6通のパブリックコメント※1)を含め、実際に健康被害が起きていることを重視した再検討を強く望みます。</p> <p>注 ※1)：食品安全委員会でのパブリックコメント（意見提出者に問合せ）</p> <p>※2)：消毒剤等の使用によって、土壌の活性が落ち、菌による分解もされにくくなっているとする御意見。</p>
3	<p>[WTO 通報に対するコメント]</p> <p>厚生労働省がクランベリーにおける現在のアセタミプリドの基準値 5ppm のMRL を削除しようとしているが、米国では、残留実態を踏まえて、0.6ppm の基準値が設定されています。再考して下さい。（原文英語のため要約）</p>

